

令和4年度
年報

市立大町山岳博物館

目 次

	頁
令和 4 (2022) 年度の活動から	1
I 資料収集・保存管理事業	3
1 資料収集	3
2 資料保存管理	3
II 調査研究事業	5
1 調査研究	5
III 教育普及事業	6
1 展示	6
2 教育普及活動	12
3 執筆・出版	21
4 広報・宣伝	22
5 大町博物館連絡会	24
6 安曇野アートライン推進協議会 美術館・博物館部会	24
7 大町山岳博物館友の会	24
8 ライチョウ会議	27
9 長野県山岳総合センターとの連携事業	28
IV 動植物飼育栽培繁殖事業	29
1 動物飼育繁殖	29
2 植物栽培繁殖	31
3 付属園整備	31
4 公益社団法人日本動物園水族館協会	32
V その他	32
1 各種委員等の委嘱他	32
2 アルプス動物園との友好提携協定の締結	32
3 信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結	33
4 長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結	33
5 ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結	33
6 梅棹忠夫 山と探検文学賞への協力	33
VI 運営	34
1 組織および職員構成	34
2 市立大町山岳博物館協議会	34
3 入館者状況	35
4 令和 4 年度予算・決算	38
5 ミュージアムカフェ・ショップ	38
VII 関係条例規則等	39
1 市立大町山岳博物館条例	39
2 市立大町山岳博物館規則	41
3 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱	43
VIII 市立大町山岳博物館の使命	44
1 市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に	44
2 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念	44
3 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本方針	45
IX 施設	47
1 敷地面積	47
2 本館建物	47
3 付属施設	48
X 利用案内	49

令和4（2022）年度の活動から

館長 鈴木 啓助

新型コロナウイルスの感染者が国内で初めて確認された令和2（2020）年1月15日から、流行の波が第8波まで繰り返し、令和5（2023）年5月8日から5類感染症となった現在でも、感染が収束を見せる気配はありません。令和3（2021）年度までは、山岳博物館も感染の拡大のたびに臨時休館を繰り返してきましたが、令和4（2022）年度はコロナ感染症に伴う臨時休館はありませんでした。2020年度にはコロナ感染症に伴う臨時休館が多く、入館者数は12,195人まで減少しましたが、2022年度は21,307人となり、2014年度以来8年ぶりに2万人を超えました。

2022年度は企画展を3件と移動企画展を1件開催しました。4月23日から7月18日まで、「大きな水がめとしての北アルプス、そして水のまち大町」を開催しました。これは、豊富な水に恵まれる大町は、背後の北アルプスにもたらされる多量の雪や雨によって育まれていることを解説し、大町の人々と水とのかかわりの歴史なども紐解きました。さらに、大町市が中心となって推進している「みずのわプロジェクト」を紹介するパネル展示も行いました。企画展の関連行事のさんばくゼミナールとして「水のまち大町を探る」を5月15日に、「民話の語りの会」を6月19日に開催しました。

4月24日には、当館主催の友の会総会記念講演会として富山大学教授の石井 博氏をお迎えして、「山のお花畑が教えてくれる生き物と生き物の繋がり」と題した講演をしていただきました。

大型連休の5月1日から5日まで、恒例の「付属園まつり」を開催しました。動植物観察ツアーやおおまびよんと遊ぼうなどは、多くの皆様に楽しんでいただきました。また、ライチョウガイドやクイズラリーでは友の会会員の皆様には大変お世話になりました。感謝申し上げます。

企画展「仁科三湖の成り立ち」を7月23日から10月16日まで開催しました。青木湖・中綱湖・木崎湖からなる仁科三湖の成り立ちを、地質学的な詳細な現地調査に基づき解説した地質専門職員の労作です。6月12日、7月30日、9月4日には各会主催の現地で解説する見学会を行うとともに、9月17日には信州大学名誉教授の公文 富士夫氏による山博ゼミナール「青木湖が記録した気候変動」を開催しました。

10月16日深夜にミュージアムショップ・カフェ「もるげんろーと」の山内優さんがご逝去されました。前日の夕方には、「もるげんろーと」の閉店後に元気な声を掛けておられたのに、職員一同、突然の出来事に驚くとともに深い悲しみで一杯でした。「もるげんろーと」では、来館者が北アルプスを眺めながらコーヒーを楽しみ寛ぐとともに、足繁く通う常連さんもおられ、当館の休憩施設として多くの皆様に愛されたカフェショップでした。山内優さんのご冥福を職員一同お祈りいたします。

10月22日から12月25日まで、企画展「山書（さんしょ）の世界」を開催しました。当館の山岳図書資料館には、登山紀行文や山の自然科学のみならず民俗に関する文献などが数多く収蔵されています。それらの中から選りすぐりの山書を展示しました。多くの山書ファンに期待していただいたにもかかわらず、「山書の魅力」に関する講演会が中止となったことは大変残念でした。

年が明けた1月4日から3月31日の冬期期間は、常設展「山と美術」を開催しました。当館が収蔵している山岳風景画の一部を展示しました。

令和5年2月18日夜中に、何者かにより玄関扉が破壊され、施錠された金庫が盗まれる侵入盗被害が発生しました。強化ガラスの二重扉が破られ、重量物の金庫ごと盗むという極めて荒っぽい手口でした。残念ながら未だに犯人は逮捕されていません。新聞やテレビ等で報道されたこともあり、市内外の皆様にご心配をおかけし、また多くの励ましの言葉を頂戴しました。

入館者が夏季に比べて冬季には減少することが当館の課題となっていますが、それを克服する試みの

ひとつとして、2020年度から年度末に「山のサイエンスカフェ」を開催しています。これは、日頃から調査研究に打ち込んでいる学芸員や専門員が、その成果を発表する場でもあります。2021年度は、新型コロナウイルス感染症のため中止とせざるを得ませんでした。今年度は、3月5日と12日に開催しました。

資料収集・保存管理事業としては、寄贈による収集資料が3件、148点、制作による資料収集が、7点あり、収蔵数は、自然科学系資料が21,570点、人文科学系資料が13,726点、図書資料が46,466点となりました。

調査研究事業としては、高山植物の生活史に関する研究、ライチョウの飼育・増殖技術確立を目指した研究や地質学に関する調査などを行い、成果については展示や研究紀要論文として発表しました。今年度の研究紀要には、原著論文2編、報告1編、短報2編と資料1編を収録しました。出版事業としては、研究紀要の他に季刊の広報誌「山と博物館」を発行し、市内全戸に配布しました。

教育普及活動の一環として、市内の小中学校をはじめとする学校で、学芸員等が連携授業・実習等を24回担当しました。教育委員会所管の博物館として、小中学校との連携は重要な役割であると認識していますので、今後とも充実した企画を提供していきたいと考えています。

ニホンライチョウの飼育繁殖事業としては、スバルバルライチョウの1つがいの繁殖に取り組み、1羽の孵化に成功し、その後も順調に成長しています。

友の会の皆様には、山岳博物館の事業で多方面からご支援をいただき感謝いたします。今年度も、探鳥会や自然観察会など様々な行事を企画・実施していただきました。改めてお礼申し上げます。

以上、2022年度に実施しました山岳博物館の主な事業についてご報告させていただきました。当館の事業を実施するにあたりましては、大町市民の皆様をはじめ、友の会の皆様、その他関係機関の皆様にご大変お世話になりました。末筆ながら深くお礼を申し上げますとともに、引き続き当館の活動に更なるご支援とご協力を重ねてお願い申し上げます。

I 資料収集・保存管理事業

1 資料収集

(1) 新規収集資料

令和4年4月1日から令和5年3月31日の間に寄贈によって次の資料を収蔵した。

① 寄贈による収集資料

内訳は、動物資料（自然科学系）1件1点、植物資料2件146点である。

No.	受入日	資料名	数量	寄贈者	住所
	10月22日	植物さく葉標本	20点	個人	長野県松本市
	11月26日	植物さく葉標本	126点	個人	長野県松本市
	7月21日	エゾライチョウの剥製	1点	個人	福岡県

②購入・製作による収集資料 ※博物館資料としての購入・製作した備品扱いの物品のみ（消耗品扱いの図書資料は除く）。

令和5年3月11日に、ヤマメの剥製2点制作（納品）

鳥剥製1点、鳥骨格2点、哺乳類骨格2点制作

2 資料保存管理

(1) 収蔵資料

①自然科学系資料

分類名および点数		自然科学系 合計 21,575点・196ケース	
蘚苔類（乾燥標本）	674点	哺乳類（剥製・骨格標本）	247点
維管束植物（液浸標本）	7点	鳥類（剥製・骨格標本）	679点
維管束植物（さく葉標本）	11,800点	昆虫（標本ドイツ箱）	258点
魚類（液浸標本等）	72点	昆虫（未標本作製資料を含む）	4,600点
両生爬虫類（液浸標本等）	72点	昆虫（液浸標本）	27点
貝・甲殻類（液浸標本）	13点	その他液浸標本（調査研究資料）	103点
		岩石・鉱物・鉱石、化石等（地質標本）	3,023点 196ケース

②人文科学系資料

分類名および点数		人文科学系 合計 13,726点	
山岳	11,896点	寄託（山岳、美術）	409点
民俗	959点	（寄託内訳）	
美術	249点	個人寄託 160点※	
美術（尾竹正躬関係）	201点	※うちピッケル関係 93点	
歴史	12点	団体寄託 249点	

③本館図書室に収蔵されている自然科学系図書資料

分類名および点数		自然科学系 合計 7,014点	
自然科学系一般図書資料	6,793点	自然科学系一般AV資料	221点

④山岳図書資料館に収蔵されている人文科学系図書資料

分類名および点数		人文科学系 合計 39,452点	
人文科学系一般図書資料	29,804点	人文科学系一般AV資料	285点
山岳資料としての図書資料（注 ¹ ）	9,363点		

（注¹）④記載の山岳資料としての図書資料点数は、②記載の人文科学系の山岳資料点数に含む。

⑤収蔵資料の点数

総計 81,767 点・196 ケース（令和 4 年 3 月 31 日現在）

⑥現状と課題

a. 自然科学系

大町山岳博物館友の会サークル「花めぐり紀行」のメンバーに台紙へのマウント作業を依頼し、約 1,300 点の登録および配架が完了した。あわせてミュージアムネット（S-net）に情報提供を行った。

b. 人文科学系

昭和 26 年の開館以降の未整理の山岳資料（二次資料や文献資料も含む）及び民俗資料が多数あり、また、現在も年間を通じて新規の寄贈を受けており、毎年継続的に相当量の資料整理・登録作業の必要性が生じている。担当学芸員と事務員を兼務する資料整理員によって通年での作業を随時継続実施しているが、新規受入資料や過去の未整理資料の量に対し、整理作業が追い付いていない状況にある。登録博物館として博物館法に定める事業を実施していく中で、資料収集・保管は基礎的な事業に位置づけられており、博物館活動を行う上で、資料整理・登録業務は常時継続的に実施していくことが求められる。今後も引き続き、年度ごとに計画的・効率的に集中して整理作業を完遂させたい。

増加傾向にある寄贈の打診時に、受入の可否を客観的に判断できるひとつの根拠資料とすべく、資料収集に関して、資料受入に関する一定の基準をもうけた内規の作成を検討する必要がある。

なお、山岳博物館では、これまで収蔵資料の目録が整備されていない状況であったため、平成 26 年度以降、人文科学系の収蔵資料目録を作成、当館公式ホームページ上で一般公開を行っている。公開する目録については PDF データとし、ホームページ制作委託業者によるメンテナンスにあわせて、最新のデータに毎年更新を行っている。今後は収蔵資料に関する情報公開をさらに進めるため、資料整理の徹底実施を図りたい。

資料整理と収蔵資料に関する情報公開に関し、将来的な課題として、当館収蔵資料（全分野）のほか、市文化財センターの収蔵資料（考古・歴史・民俗資料）と生涯学習課で管理する美術資料を含め、市教委が保管する市所有の各種資料の一括管理について、専門業者が手掛ける博物館・美術館収蔵資料の情報処理システム導入（目録の記録内容のテキストデータや収蔵資料の記録写真の画像データの公開も含め）の必要・有効性や効率性などを関係課・係と協議・研究する必要がある。

(2) 保存管理

資料の保存にあたっては、これまでと同様に、忌避剤やフェロモントラップを定期的に入れ替え、害虫の進入を予防する防虫対策を行い、人文科学系においては、夏期に収蔵庫内の空調を夜間、稼働させて温湿度を調節して防霉等の対策を行った。

しかしながら、課題としている展示室や収蔵庫を含め、資料の保存管理環境に関し、博物館レベルの水準に近づけるための維持管理には達していないのが現状である。

II 調査研究事業

1 調査研究

(1) 高山植物の生活史に関する研究（担当：千葉悟志）

昨年度に引き続き、博物館での栽培個体を中心に花、種子、果実の調査を実施した。

(2) 大北地域の植物分布調査（担当：千葉悟志）

長野県の植物相を把握するため、県下で実施されている植物調査のうち、山岳博物館は今年、大町市で計 6 回実施した。調査の際には見直しができるように標本を採取し、標本は証拠として山岳博物館植物標本庫に配架予定である。

(3) 企画展にかかる調査（担当：千葉悟志）

令和 6 年開催予定の企画展「学校の生きもの探索記（仮）」に向け、市内小学校で植物（担当：千葉）および動物相（担当：藤田）の調査を計 3 回実施した。

(4) ライチョウの飼育・増殖技術確立を目指した研究（担当：栗林勇太・藤田達也・小里玲奈・唐澤紗波・辰己萌恵・渡邊咲晴）

環境省のライチョウ保護増殖事業取り組みの一環として、ライチョウ飼育園館や、研究機関（日本獣医生命科学大学、岐阜大学、中部大学、大阪市立大学等）と連携しながら共同研究を行っている。本年度も、飼育舎内における年間を通じた温度・湿度・紫外線強度・日照度の測定を継続したり、定期的な体重測定や換羽した羽の枚数を計測し、これらの機関に情報提供を行った。無精卵や未発生卵の検査、クリアチニン／尿酸比の季節的検査及び死亡したライチョウの病理検査については、日本獣医生命科学大学に、糞中に含まれるホルモン測定による温度・日照時間等の関係を岐阜大学に提供し、解析を実施している。

今年度は、スバルバルライチョウの繁殖を行い、大阪市立大学に受精卵を提供した。同大学では、スバルバルライチョウを用いて、アメリカ原虫がライチョウ類に及ぼす各種影響を調べたり、アメリカ原虫に対する駆虫薬の開発等を行っている。

今後も関係機関と連携を図り、ライチョウの保全事業に必要と考えられる調査研究を行っていく。

(5) 北アルプス地域の気象に関する調査研究（担当：鈴木啓助）

爺ヶ岳種池山荘での自動測器による気象観測を、長野県環境保全研究所と共同しながら継続して実施している。

大北地域における気象庁による気象観測は、現在のアメダス観測網では大町、白馬、小谷のみである。しかし、アメダス観測以前にはさらに多くの地点で気温や積雪深などの観測が行われていた。それら区内気象観測所における手書きによる観測原簿から、データを読み取り解析を行っている。

(6) 仁科三湖と佐野坂峠の成り立ちを探る（担当：太田勝一）

仁科三湖と佐野坂丘陵の成因については、従来不明な点が多かった。仁科三湖のうち青木湖は、かつては白馬盆地に連続した谷だったと考えられている。その後、仁科山地で大規模な崩壊が発生して、崩壊土砂が佐野坂丘陵を形成したことが分かっている。これに伴い、旧姫川の南側が堰き止められて、青木湖が形成された。しかし、崩壊がどこからどのようにして発生したのかは分かっていた。また、中綱湖と木崎湖の成因については、従来ほとんど調査研究がされていなかった。

そこで本事業では、仁科三湖の成因を探るために、空中写真と地形図を用いた地形解析と、延べ 40 日にわたる現地調査を実施した。これにより、仁科山地の地質と佐野坂崩壊の関係が明らかにされた。本事業の成果は、次年度に追加調査と合わせて考察を加え、令和 4 年度の企画展「仁科三湖の成り立ち」として公表する。

Ⅲ 教育普及事業

1 展示

(1) 常設展示

メインテーマを「北アルプスの自然と人」とし、「自然と人が共生する山岳文化」を山岳博物館からのメッセージとして伝える。

①展示テーマおよび展示資料点数 総計 1,013 点 (令和 4 年 3 月 31 日現在)

内訳 (自然科学系 合計 453 点、人文科学系 合計 560 点)

展示テーマ	資料 点数※ ¹	展示テーマ	資料 点数※ ¹
3階 展示室 「あなたと山のかかわり 展望ラウンジ」ゾーン			計 104 点
大町のプロフィール	24 点	大町の空からマップ	1 点
後立山連峰のパノラマ	1 点	山頂の石たち	5 点
北アルプス後立山連峰の山々	20 点	雪形の伝承	27 点
山の伝説	7 点	「北アルプスの自然と人」映像	1 点
つながりプロローグ	18 点		
2階 ホール 「山の成り立ち」ゾーン			計 80 点
水の惑星・地球 46 億年の生い立ち	36 点	日本列島の生い立ち	1 点
驚きのフォッサマグナ	18 点	驚きの北アルプス	23 点
「北アルプスの生い立ち」映像	1 点	中部地方衛星写真	1 点
2階 展示室 「山と生きもの」ゾーン			計 368 点
立山の氷河・カクネ里雪渓・いまを生きる生物	3 点	里山から高山までの生物	249 点
ニホンカモシカ	9 点	ライチョウ	62 点
溪谷の生物	9 点	湖の生物	18 点
湿原の生物	14 点	ライチョウの捕食者	4 点
1階 展示室 「山と人 北アルプスと人とのかかわり」ゾーン			計 429 点
山の魅力	7 点	北アルプスと人とのかかわり年代記	7 点
峠を越える ―針ノ木峠の歴史―	39 点	山に暮らす ―山の恵みと山村の暮らし―	87 点
山に祈る ―山の信仰―	20 点	「山と人」映像	1 点
大町山岳人列伝	10 点	山を測る ―測量―	5 点
山を調べる ―博物学―	23 点	山を描く ―絵画―	8 点
山を写す ―写真―	21 点	山で学ぶ ―日本の近代登山―	146 点
山に住まう ―山小屋の変遷―	28 点	登山の道具	23 点
山とのかかわりの窓	0 点	つながりコラム	5 点
1階 エントランス・ホール			計 8 点
「北アルプスの自然と人」導入	1 点	山とわたしたちの未来	
新・対山館サロン	1 点	こどもひろば	6 点
1階 特別展示室 「山と美術 ―山岳風景画とウッドシャフトピッケル―」※ ²			計 23 点
山岳風景画	18 点	ウッドシャフトピッケル	5 点

※¹ 点数には、実物資料のほか、写真・図表グラフィックなどの図版資料と映像資料を含む。

※² 特別展示室の展示については、特別展・企画展開催時には各テーマで展示替えを行う。

(2) 企画展示・特別展示

①企画展「大きな水がめとしての北アルプス、そして水のまち大町」(担当：鈴木啓助)

a. 会 期：令和 4 年 4 月 23 日 (土)～7 月 18 日 (月) ※開催日数：延べ 78 日間

b. 会 場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. 概 要：槍ヶ岳から北流し南転する高瀬川、針ノ木大雪渓を水源とする籠川、カクネ里氷河を源の

ひとつとする鹿島川、仁科三湖から流れ下る農具川、そして市街地や田畑が広がる平坦部には堰と呼ばれる人工の水路が縦横に巡り、それらは人々の営みを支えている。大町市はまさに「水のまち」である。

居谷里湿原や唐花見湿原がある東山も重要な水源のひとつだが、大町市に豊富な水をもたらす大きな水がめは北アルプスである。日本は偏西風帯に位置しているため、天気の変り変わりを支配する高気圧や低気圧は、一般に西から東へと移動していく。特に寒候期には、チベット・ヒマラヤ山塊の南北に分かれていた亜熱帯ジェット気流が、日本の上空で合流するため、強い西風が吹くことになる。これらの西からの擾乱の移動に対して、南北に連なる北アルプスは障壁の役割を果たしている。そのため、北アルプスには寒候期の雪のみならず暖候期の雨も大量にもたらされる。北は白岳から南は槍ヶ岳までの北アルプスの峰々を西端とする大町市は、大きな水がめを背負っている。水は低きに流れることから、高いところに水がめを有する地理的立地が、大町市を「水のまち」たらしめる所以である。

d. **展示構成**：我々を含めた生き物に不可欠な水が循環する仕組みから解き明かし、北アルプスなどの山岳で雪や雨などの降水量が多くなる理由、白いダムや緑のダムとしての山の雪や森林の役割を解説した。次に、大町市における水と人との関わりについて、先史時代から現在へと辿り、先人が淡水魚を捕獲する際に利用した民具なども展示した。そして、今も町並みに残る水に関わる営みを紹介した。人々は水と密接に関わりながら生きてきたので、水にまつわる民話もたくさん残っている。最後に、大町市・サントリー・JTBなどが取り組む「みずのおプロジェクト」について紹介した。

第1章 地球の水循環（山岳博物館・鈴木）

第2章 水がめとしての北アルプス（山岳博物館・鈴木）

第3章 信濃おおまち 水の文化史 - 大町市における水と人にかかわる歴史・民俗 -
（文化財センター・関）

第4章 魚が生きる大町（山岳博物館・栗林）

第5章 水と人々の営みが息づく町並み（文化財センター・関本）

第6章 水にまつわる大町市の説話・伝承 「泉小太郎」伝説（文化財センター・関）

第7章 「みずのおプロジェクト」（企画財政課・サントリー・JTB）

e. **観覧者**：6,216人（有料5,156人、無料1,060人）

f. **関連事業**

ア **ミュージアムガイド**（担当：鈴木啓助）

a. **開催日**：令和4年4月24日（日）

5月14日（日） ※家庭の日

6月18日（土） ※家庭の日

b. **時間**：各日とも10:30～・14:30～ 各回20分程度

c. **場所**：市立大町山岳博物館 特別展示室

d. **参加者**：延べ参加者20人（大人20人）

イ **さんばくゼミナール「水のまち大町を探る」**（担当：鈴木啓助）

a. **開催日**：令和4年5月15日（日） ※家庭の日

b. **時間**：13:30～15:30

c. **場所**：市立大町山岳博物館 特別展示室

d. **参加者**：参加者23人

プログラム：

水がめとしての北アルプス（鈴木啓助）

信濃おおまち 水の文化史（関 悟志）

魚が生きる大町（栗林勇太）

水と人の営みが息づく大町市中心市街地の町並み（関本景香）

ウ **さんばくゼミナール「民話の語りの会」**（担当：鈴木啓助）

・**開催日**：令和4年6月19日（日）

・**時間**：13:30～15:00

・**場所**：市立大町山岳博物館 講堂

・**主催**：市立大町山岳博物館

・**協力**：大町民話の里づくり もんぺの会

・参加者：53人（一般31人・もんぺの会22人）

②企画展「仁科三湖の成り立ち」（担当：太田勝一）

a. 会 期：令和4年7月23日（土）～10月16日（日） ※開催日数：延べ80日間

b. 会 場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. 概 要：仁科三湖の成因については、佐野坂丘陵により青木湖が堰き止められたことの概要しかわかっていなかった。本企画展では詳細な現地調査結果に基づいて、実物標本をもとに、仁科三湖全体の成り立ちを考察したものを分かり易く展示し紹介したい。

d. 展示構成：仁科三湖周辺の地形・地質の概要、これまでの疑問点について現地調査の結果、および調査から導かれた仁科三湖の成り立ちについて展示する。

第1章 仁科三湖の概要

第2章 調査で分かったこと

第3章 仁科三湖はどのようにできたか

第4章 青木湖が記録した気候変動

第5章 まとめ

仁科山地と佐野坂崩落を構成する岩石と地層の標本とその顕微鏡写真。青木湖で実施したボーリング資料を展示する。

e. 観覧者：7,630人（有料6,584人、無料1,046人）

f. 所 見：仁科三湖の成因については従来、複数の異なる考えが提案されてきました。古くから、糸魚川―静岡構造線による「断層湖」であるとの説が知られていましたが、実証的な研究がされたことはありません。また、仁科三湖のうち、青木湖と佐野坂丘陵については過去の研究がありますが、中綱湖と木崎湖の成因はこれまで研究されたことがありません。

佐野坂丘陵の成因については、昭和初期に氷河説や火山噴火説が提案されました。その後、昭和60年以降に信州大学の研究者により、約3万年前に西側山地で発生した巨大崩壊（佐野坂崩壊）により旧姫川が堰き止められて、青木湖形成されたことが明らかになりました。

一方で、佐野坂丘陵の形成過程には以下の疑問点が残されていました。

- ・崩壊堆積物の位置が、仁科山地に予想される崩壊地の位置より北側に大きくかたよっている
- ・崩壊堆積物は安山岩類の岩塊からなるが、従来の仁科山地の地質図には安山岩類の存在が示されていない
- ・このため、巨大崩壊がどこで発生し、どのように谷を堰き止めたかが不明だった

今回、企画展のために延べ50日間の詳細な現地調査を行い、33年ぶりに新たな地質図を作成しました。これにもとづいて、仁科三湖と佐野坂丘陵の形成史を考察し、本企画展では、従来研究されてこなかった諸課題を解決するための新たな説を、野外現象にもとづいて分かりやすく提示しました。

g. 関連印刷物：企画展解説書『仁科三湖の成り立ち』発行（令和4年9月30日発行）

関連事業

ア ミュージアムガイド（担当：太田勝一）

・開催日：令和4年8月13日（土）

9月10日（土）

・時 間：各日とも午前10時30分～・午後2時30分～ 各回30分程度

・場 所：市立大町山岳博物館 特別展示室

・参加者：30人

・概 要：担当者が展示の見どころなどを解説。

イ 現地見学会 「仁科三湖の成り立ち」（担当：太田勝一）

・開催日：令和4年9月4日（日）

・時 間：午前8時～午後4時

・場 所：仁科三湖周辺

・対 象：高校生以上・定員15人

・参加費：1組500円（資料、保険料）

・講 師：太田勝一

・主 催：大町山岳博物館友の会

・参加者：17人

・概要：仁科三湖周辺を移動し、現地を観察しながら、その成り立ちについて解説を行う。

ウさんばくゼミナール「青木湖が記録した過去3.4万年間の日本の気候変動」（担当：太田勝一）

・開催日：令和4年9月17日（土）

・時間：午後1時30分～午後3時30分

・場所：市立大町山岳博物館 講堂

・講師：公文富士夫氏（信州大学名誉教授）

・募集人数：定員40人・参加者40人 ※参加費無料

・概要：青木湖湖底にたまった砂や泥などの堆積物の調査・分析から、過去3.4万年以降の自然環境の気候の変動を読み解き、変化の意味について講演。

エ親子地学教室 河原の石ころを見に行こう（担当：太田勝一）

・開催日：令和4年9月25日（日）

・時間：午前9時～午前11時30分

・場所：大町エネルギー博物館近くの籠川の河原

・協力：大町エネルギー博物館、山岳博物館友の会

・講師：太田勝一ほか

・募集人数：小学生とその保護者 定員20人 ※参加費1組500円

前日の降雨のため、河川が増水し危険なため行事は中止とした。

・概要：高瀬川の支流・籠川は、北アルプスの蓮華岳から爺ヶ岳を源流域とする河川であり、かつて存在した爺ヶ岳カルデラの主要部を侵食している。このため、籠川の河原の石ころは爺ヶ岳カルデラを構成していた岩石から構成される。本企画では、親子で河原の石ころを採集し岩石標本を作ることにより、北アルプスの成り立ちを実物で楽しく理解してもらおう。当日の内容を以下に要約する。

・あらかじめ設定した、採取する石ころの区分について説明。

・組ごとに見本写真を見ながら8種類の石ころを拾い、標本ケースに整理。

・拾った石ころが区分と合っているかを、3班に分かれて答え合わせ。

・拾った石ころが、北アルプスの成り立ちでどんな意味を持つかをパネルで解説。

③企画展「山書の世界」（担当：清水隆寿）

a. 会期：令和4年10月22日（土）～12月25日（日） ※開催日数：延べ55日間

b. 会場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. 概要：市立大町山岳博物館の附属施設「山岳図書資料館」は令和4年度にオープンから10周年を迎えました。山岳図書資料館は博物館創立60周年を記念して平成23年度に大町市が建設し、平成24年4月に開館しました。建設にあたって、同じく平成23年度に創立50周年を迎えた長野県山岳協会から建設費の一部として寄付金をいただくとともに、山岳図書資料館をご寄贈いただきました。

山岳図書資料館では、山岳図書等の資料を収集・保管することで散逸・亡失を防ぐとともに、市民をはじめ登山者や研究者等の調査研究及び教育普及に資することで山岳文化の継承と普及の推進を図っています。具体的な収蔵資料としては、山岳に関する書籍のほか、地形図、記録書類、書簡、記録写真、記録映像フィルム及びこれらに準ずるものがあり、それらの収蔵資料は現在約3万5千点を数えます。

本展では、当館で収蔵し、附属施設「山岳図書資料館」で保管する山岳図書資料、略して「山書(さんしょ)」の中から、明治期以降に出版された希少本や岳人ゆかりの本を中心に、山岳関係の書籍等約40点を展示します。

岳人たちが記録に残した山への思いを現在に伝える山岳図書。読書の秋、山の本にふれていただき、それらが伝える山の魅力にあふれた“山書”の世界をぜひ会場でお楽しみいただくように実施した。

d. 展示構成：附属施設である「山岳図書資料館」で、収蔵管理する山岳図書資料の中から、明治期以降に出版された山岳関係の書籍約50点を展示した。

(1)開催にあたって

(2)山書について

(3)当館収蔵の山岳コレクション 実物資料の展示と解説

「近代登山以前（江戸時代）」、「日本近代登山の幕開け」、「日本近代登山の隆盛」、「アルピニズム登山の展開」、「ヒマラヤへの道」などのテーマに関連した博物館所蔵の図書の展示と解説。

e. 観覧者：3,054人（有料2,566人、無料488人）

f. 所見：山岳博物館附属施設の「山岳図書資料館」は、平成23年度に建設を行い、翌平成24年4月に開館をして以来本年度で10周年を迎える。これを記念してより多くの方々に、山岳図書資料館を知っていただく、あるいは興味・関心をもっていただく機会とするため、今回の企画展を開催した。資料館収蔵の書籍の中から、上記のテーマに沿った歴史的価値のある書籍をご覧いただき、興味を持っていただき、今後とも資料の収集・保存管理を徹底し、散逸を防ぐとともに、これらの資料を教育普及活動に利活用していきたい。

g. 関連事業

ア ミュージアムガイド（担当：清水隆寿）

- ・開催日：令和4年11月6日（日）、12月4日（日）
- ・時間：各日とも午前10時30分～・午後2時30分～ 各回30分程度
- ・場所：市立大町山岳博物館 特別展示室
- ・参加者：延べ参加者 大人6人
- ・概要：学芸員が展示の見どころなどを解説。

イ 講演会「山書の魅力」

- ・開催日：令和4年10月23日（日）
- ・時間：午後1時30分～午後3時
- ・場所：市立大町山岳博物館 特別展示室
- ・参加者：定員40人 ※諸事情により講演会中止。

④常設展「山と美術」（担当：清水隆寿）

a. 会期：「山と美術」展 令和5年1月4日（水）～3月31日（金） ※開催日数：延べ73日間

b. 会場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. 概要：当館が収蔵している山岳風景画約20点の展示を行う。

d. 観覧者：2,731人（有料2,241人、無料490人）

e. 所見：山岳博物館では、山に関わる芸術・絵画作品などを収集・展示を行っているが、展示会場が十分でないため、企画展示を行っていない冬期間において、特別展示室において絵画展示をご覧いただいている。博物館は安曇野アートライン加盟館に属することから、美術の愛好者の方々にはご不便をかけている状況であり、今後作品の展示方法について考えてまいりたい。

f. 関連事業

ア ミュージアムガイド（担当：清水隆寿）

- ・開催日：令和5年2月19日（日）→臨時休館のため中止、3月19日（日） ※いずれも家庭の日
- ・時間：各日とも午後2時～ 30分程度
- ・場所：市立大町山岳博物館 特別展示室
- ・参加者：延べ参加者 大人2人
- ・概要：学芸員が展示の見どころなどを解説。

(3) さんばく研究最前線 —北アルプスの自然と人 トピックス—（担当：清水隆寿）

山岳博物館2階ホールにおいて、博物館からの最新の研究成果や話題性のある情報をパネルにして、3ヶ月ごとに内容を入れ替えながら、来館者の皆様に展示をご覧いただくコーナーとして、平成26年の展示改修より開始されたパネル展示。博物館での展示が終了しだい、大町市役所1階市民ホールにて約2週間それぞれ同パネルの出張展示（移動展示）を市民対象に実施した。

なお、パネル展にあわせて、展示期間中に発行する広報誌『山と博物館』に展示内容を紹介する特集ページを掲載し、展示をご覧いただけなかった方々にも情報提供を行った。

①テーマ「福島第一原発から12km地点での3.11津波を、堆積物から復元する」（担当：太田勝一）

a. 会期：当館2階ホール展示 令和4年5月1日（日）～6月30日（木）

市役所 市民ホール展示 令和4年7月19日（火）～29日（金）

b. 掲載誌：『山と博物館』2022春号（第67巻第1号）

②テーマ「大町市内のイノシシの生息状況調査」 (担当：藤田達也)

- a. 会 期：当館 2階ホール展示 令和4年7月1日(金)～9月30日(金)
市役所 市民ホール展示 令和4年10月24日(月)～11月4日(金)
- b. 掲載誌：『山と博物館』2022夏号(第67巻第2号)

③テーマ「大町とオオカミ」 (担当：栗林勇太)

- a. 会 期：当館 2階ホール展示 令和4年10月1日(土)～12月28日(水)
市役所 市民ホール展示 令和5年1月10日(火)～1月20日(金)
- b. 掲載誌：『山と博物館』2022秋号(第67巻第3号)

④テーマ「爺ヶ岳・岩小屋沢岳における高山植物生態系の今を探る」

(担当：堀田昌伸・長野県環境保全研究所)

- a. 会 期：当館 2階ホール展示 令和5年1月4日(水)～3月31日(金)
市役所 市民ホール展示 令和5年5月8日(月)～19日(金)
- b. 掲載誌：『山と博物館』2022冬号(第67巻第4号)

(4) 移動展示

①八十二文化財団 文学講座関連企画ミニ展覧会「北アルプス 山岳文学の魅力」(担当：清水隆寿)

- a. 会 期：令和4年6月14日(火)～6月28日(火) ※会期中無休、開催日数：延べ15日間
- b. 会 場：八十二別館1F スペース82(長野市岡田178-13)
- c. 共 催：公益財団法人 八十二文化財団、市立大町山岳博物館
- 概 要：部地質・人文資料計84点を展示し、北アルプスとその周辺にくらす生き物を紹介した。会期中、館内で展示の見どころなどを解説するミュージアムガイド等を開催した。
- d. 展示構成：八十二文化財団主催の文学講座「北アルプス 山岳文学の魅力」の内容に沿って、関連資料やパネルを歴史的な視点から展示しご覧いただいた。
第1章 井上靖「切れたナイロンザイル」(パネル2枚)
第2章 百瀬慎太郎「山を想えば人恋し」(パネル4枚 及び百瀬慎太郎所縁の資料4点を展示)
第3章 新田次郎 「劔岳 点の記」(パネル2枚)
- e. 観覧者：約300人 ※入場無料

②八十二文化財団 企画展「大北に生きる ～塩の道・千国街道とともに～」(担当：清水隆寿)

- a. 会 期：令和5年2月7日(火)～2月26日(日) ※会期中無休、開催日数：延べ20日間
- b. 会 場：八十二別館1F スペース82(長野市岡田178-13)
- c. 主 催：公益財団法人 八十二文化財団
- d. 共 催：市立大町山岳博物館、塩の道ちょうじや、大町民話の里づくり もんぺの会
- e. 後 援：大町市教育委員会、白馬村教育委員会、小谷村教育委員会、糸魚川市教育委員会
- f. 概 要：歴史街道である「塩の道・千国街道」をテーマに、街道ゆかりの資料や写真・絵画・紙粘土人形などの展示を通じて、大北地方の自然、歴史、文化など様々な視点から紹介する。
- g. 展示構成：全体構成…塩の道ルートエリアと絵画展示エリアを設定。
塩の道ルートエリアは、大町～白馬～小谷のルート順に、壁面には各地域の風景写真、空間スペースには、紙粘土人形や塩の道街道に所縁のある背負子や衣服などの民俗資料の展示を行なった。絵画展示エリアには、山岳博物館からの出品した北安曇の風土、歴史、山岳を感じさせるような風景画を11点選定し展示を行った。絵画を通して塩の道の風景を歩いているような雰囲気意識して構成を行った。
- h. 関連イベント
 - ①2月8日(水) ギャラリートーク「北の安曇野をめぐる塩の道」田中省三(2回)
 - ②2月12日(日) パネルディスカッション「千国街道の魅力再発見」清水隆寿(大町山岳博物館)、澁谷祥充(小谷村教育委員会)、山岸洋一(糸魚川市教育委員会)、黒川恵理子(塩の道ちょうじや)
 - ③2月12日(日) ギャラリートーク「千国街道を彩る画家たち」清水隆寿(大町山岳博物館)(2回)
 - ④2月18日(土) 民話語り「北安曇に伝わる民話」大町民話の里づくり もんぺの会

i. 観覧者：約 1,000 人 ※入場無料

③「第 18 回 安曇野アートライン展」への参加と協力（担当：清水隆寿）

- a. 主催：アルプスあづみの公園管理センター
- b. 共催：安曇野アートライン推進協議会
- c. 会期：令和 4 年 11 月 23 日（水）～12 月 18 日（日）
- d. 会場：国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区 あづみの学校多目的ホール（安曇野市）
- e. 概要：安曇野アートライン推進協議会加盟の美術館・博物館の作品や紹介パネル等を一堂に展示し、各館所蔵の芸術作品の鑑賞及び出展館の由来や歴史などを通してアートの世界を体感していただいた（主催：アルプスあづみの公園マネジメント共同体、共催：安曇野アートライン推進協議会）。また、本展開催期間中、あづみの公園とアートライン加盟館の利用促進を目的として、各館を巡る「アートライン・スタンプラリー」を実施。本年度、当館からの出品作品は、山田恭子氏ボタニカルアート（植物細密画）4 点を出展。また、スタンプラリーにも参画し、景品として山岳博物館無料入館券を提供。会期中の入場者数は 5,937 人であった。

④「令和 4 年度 美術館を学校で楽しもう ー出張美術館で秀作絵画・彫刻に触れるー安曇野アートライン展」（通称：安曇野アートライン出張美術館）（担当：清水隆寿）

- a. 会期：令和 4 年 10 月 13 日（木）～14 日（金）
- b. 会場：小谷村立小谷中学校 多目的室
- c. 参加者：小谷中学生 1 年～3 年 生徒 53 人
- d. 概要：安曇野アートライン加盟館のうち 12 館より作品を小谷中学校の多目的室に持ちより、（油彩画・水彩画・版画・写真・彫刻など合計 21 作品）を出品・展示した。10 月 13 日午後は男生徒 27 人と女生徒 26 人の 2 回に分けて加盟館学芸員ほかによるギャラリートークを開催した。翌 14 日は村民にも開放して鑑賞していただいた。山岳博物館においては、中村清太郎「立山残雪」ほか 1 点の絵画作品を展示した。近年美術の授業数は減少しており、今回の出張美術館は、生徒が本物の絵に接し、本物芸術作品が生み出す力を自らが感じる事ができ、更に美術館や博物館に関心を持ってもらえるよい機会になったのではないかと思います。

2 教育普及活動

(1) 学習会等の開催

①市立大町山岳博物館主催 大町山岳博物館友の会 共催事業

令和 4 年度 大町山岳博物館友の会 総会記念講演会

「山のお花畑が教えてくれる生き物と生き物の繋がり」（担当：藤田達也）

- a. 共催：大町山岳博物館友の会
- b. 開催日：令和 4 年 4 月 24 日（日）
- c. 場所：市立大町山岳博物館 講堂
- d. 対象：大町市民・友の会会員 大人～子ども 定員 50 人（感染対策として 30 人に変更）
- e. 参加者：33 名
- f. 講師：石井博氏（富山大学 学術研究部 理学系 教授）
- g. 概要：現在は植物と訪花昆虫の関係を中心に、環境と生物の関わりや生物間の相互作用を動物行動学・進化生態学・群集生態学の視点から研究されている石井博氏にその研究成果についてお話を伺うとともに、これまでの外国での研究活動で得られた成果との比較により、日本の高山植物の特徴についてもお話しいただいた。
- h. 所見：本企画は、令和 3 年度に開催した「北アルプス誕生とそこに息づく高山植物のものがたりー花、果実、種子、芽生え、ときどきふしぎ発見！ー」に関連イベントとして開催するものであったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、延期したものである。しかしながら、4 月に至っても未だ感染が収まらなかったことから、募集を 30 人として対応した。石井氏は、2020 年に「花と昆虫のしたたかで素敵な関係ー受粉にまつわる生態学ー」を執筆され、内容は一般でもわかり易く、講演でもそれらの成果に基づき、お話しいただいた。参加者は新たな視

点を得て、高山環境に関心を持ったことがアンケートからも見てとることができ、概ね好評であった。

②ふぞくえんまつり（担当：栗林勇太・小里玲奈・唐澤紗波・辰己萌恵・渡邊咲晴）

a. 会 期：令和4年5月1日（日）～5月5日（木）

b. 会 場：市立大町山岳博物館 付属園

c. 参加者：延べ2,449人（子ども～大人）

（内訳）「ふぞくえんクイズラリー」 257人 5月1日～5日

「動物写真展」 1,104人 5月1日～5日

「動植物観察ツアー」 30人 5月2日・4日

「おおまぴょんと遊ぼう」 60人 5月4日

「ライチョウガイド」 998人 5月1日～5日

d. 概 要：展示動物を題材にしたクイズを解いて回る「ふぞくえんクイズラリー」、展示動物を解説しながら園内を巡る「どうぶつ観察ツアー」、ライチョウの生態や保全について解説を行う「ライチョウガイド」、幅広い層にカモシカに興味を持っていただく「おおまぴょんと遊ぼう」、過去～現在までに飼育してきた動物の写真を展示する「動物写真展」の5の催しを実施した。山岳博物館では、開館間もない昭和28年頃から動植物を飼育栽培する付属園（動植物園）を屋外に併設し、希少野生動植物の保護増殖や調査研究を行うとともに、北アルプスの山麓から高山に生息する生物を飼育栽培して、生体展示などの教育普及を行っている。また、平成9年度から大北地域周辺の野生傷病鳥獣を救護収容している。付属園にかかわる市民対象の各種催しを実施する期間を「ふぞくえんまつり」と称して各催しを実施することで、付属園と飼育動物を身近に感じ、親しみを持っていただくとともに、傷病鳥獣の救護などの活動についても広く周知し、付属園の役割について理解を深めていただいた。これにより、大町市周辺地域の野生動物や自然環境への関心を高めていただくことを目的とした。

e. 所 見：「ふぞくえんクイズラリー」については、例年スタンプラリーを実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から参加者にスタンプに触れさせることができず、クイズラリーに変更したものの子どもから大人まで幅広く参加者が見られた。記念として付属園内を回る際のアクセントとして非常に有効であったと考える。ライチョウの見学に多くの来館者が見えられたことから、随時解説を行う「ライチョウガイド」は保全への関心や当館の事業を理解していただくうえで有効であったと考える。更に、「動植物観察ツアー」では、飼育動物について解説を加えることで、付属園の役割や傷病鳥獣救護といった観点にとどまらず動物への関心を深める機会となり、自然環境保全への入り口としての機能を果たした。「動物写真展」は今年初めての試みであったが、昔の飼育動物の写真を見て懐かしむ声が聞かれたり、小さい子供が写真を見て喜ぶ姿が見られた。また、5日のみの展示であったが好評であり、開催期間を長くして、説明書きなどもしっかり加えた特別展示を今後開催しても良いと感じた。

ア 「ふぞくえんクイズラリー」

付属園の展示動物を題材にしたクイズを解きながら付属園を回ってもらうことで楽しみながら学ぶ機会とするとともにじっくり観察してもらうことで見学効果を高め、飼育動物や付属園に親しんでいただく。

・開催日時 5月1日（日）～5月5日（木・祝） 《5日間》

イ 「動物写真展」

付属園で現在飼育している動物及び過去に飼育していた動物の写真を展示し、日ごろなかなか見ることができない貴重な姿を見てもらうことで、より一層興味・関心を持っていただく機会とする。

・開催日時 5月1日（日）～5月5日（木・祝） 《5日間》

ウ 「動植物観察ツアー」

来園者と一緒に付属園の飼育・栽培動植物を解説しながら園内を回ることで、見学効果を高め、飼育動物や付属園の役割を理解していただく。

・開催日時 5月2日（月・祝）、5月4日（水・祝） 各日午前11時～、午後2時～

エ 「おおまぴょんと遊ぼう」

カモシカをモチーフとしたおおまぴょんが動物観察ツアーの後に登場。小さい子供にも付属園や

カモシカに親しんでもらう機会とする。

・開催日時 5月2日(月・祝)、5月4日(水・祝) 各日11時30分～、15時～

オ 「ライチョウガイド」

一般公開の始まったライチョウについて、展示されている生体のライチョウを見ながら生態や保全の取り組みについて解説を行うことで、ライチョウやその生息する高山生態系の保全について理解を深めていただく機会とする。

・開催日時 5月1日(日)～5月5日(木・祝) 《5日間》

③初心者のための野鳥撮影講座(担当:藤田達也)

・開催日:令和4年5月21日(土)・6月4日(土)

・時間:午前9時00分～11:00

・場所:高瀬川堤防沿い

・参加者:3人

・概要:2日間の開催を計画したが、5月21日は雨天のため中止し、6月4日のみの開催となった。現地において、野鳥撮影を行う前のマナー、シャッタースピード・絞り・ISO感度の仕組みなどの基本的な学習を行った。野鳥の撮影にあたっては、鳥の探し方、見つけ方など実践的に実施した。また今後の野鳥撮影のためのカメラの選び方など参考に講義を行った。

④自然ふれあい講座 みんなで温暖化ウオッチ「セミのぬげがらを探せ！」(担当:栗林勇太)

(「長野県環境保全研究所 令和4年度自然ふれあい講座」を兼ねて開催)

a. 開催日:令和4年8月3日(水)

b. 共催:長野県環境保全研究所

協力:自然観察指導員長野県連絡会、セミの抜け殻しらべ市民ネット

c. 場所:大町公園周辺 及び 当館 山岳総合センター講堂

d. 参加者数:小人4人・大人3人 合計7人

e. 概要:セミの抜け殻を探したり、じっくり観察しながら種を同定することで、楽しみながら身近な自然を学ぶ機会を提供する。また、毎年繰り返し実施することで、地球温暖化がセミに与える影響を調査する。本年度も大町市以外に長野県下5ヶ所(長野市・上田市・松本市・伊那市・飯田市)にて同様の調査を継続している。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2～3年度は一般参加を中止し、今年は3年ぶりの開催であった。

f. 所見:令和元年度以来の実施であった。10組(20名)の募集のところ、7組の応募があった。コロナの影響からか、例年より申込者が少なかった。この取り組みは、温暖化の影響を把握ができることに加え、子どもに自然への関心を持ってもらうための有効な手段であることから、次年度以降も継続して実施していきたい。

エ 標本づくり隊(担当:藤田達也)

a. 開催回数:10回(2・3月を除く各月)

b. 時間:午後1時00分～午後4時30分(両日とも)

c. 場所:市立大町山岳博物館 講堂

d. 主催:市立大町山岳博物館

e. 参加人数:延べ110名(昨年25名)

f. 概要:鳥類および哺乳類の羽根・骨格標本・仮剥製の作製。

g. 概要:山岳博物館では多くの剥製を収蔵しているが、それらの剥製がどのような目的で、またどのような手順を経て作られているかについて、市民および来館者が知る機会は皆無に等しい状況と言える。そこで本事業では、剥製制作においては最も難易度が低いと考えられる、鳥類の仮剥製を参加者自らが制作することで、博物館の役割の1つでもある収集・保管の重要性について知っていただくとともに、動物に関する知識を深める機会とすることを目的とする。

h. 所見:博物館における剥製制作(収集・保管)の意味を、手を動かして体験してもらうことで、より深く理解してもらえた。また、仮剥製を制作することで、必然的に生き物の細部まで観察

することに繋がり、動物に対する観察力を培うことができた。標本づくり隊制作による博物館への収蔵品数は4点（ツグミ・ノゴマ・ハシボソガラスの全身骨格標本、スズメ・ノゴマの羽根標本）

⑤第21回 北アルプス雪形まつり（担当：清水隆寿）

今年で21回目となる北アルプス雪形まつり実行委員会主催の「北アルプス雪形まつり」雪形ステージが令和4年6月4日（土）に大町市文化会館において開催された。併せて山岳博物館において、大町温泉郷を会場に雪形パネル展示及び雪形ウォッチングが開催された。

- a. 協力 大町市山岳博物館、安曇野雪形研究会
- b. 雪形パネル展 雪形の写真と解説のパネル展示
展示会場：大町温泉郷各ホテル、大町市図書館
展示期間：令和4年4月27日（水）～5月10日（火）（合計14日間）
- c. 雪形ウォッチング 見学地：白馬村から安曇野市にかけての雪形見学ツアー。マイクロバス使用。
開催日：5月15日（日） 参加者大人9人
5月29日（日） 参加者大人10人
※コロナ感染拡大防止のためいずれの日も、定員10名。
講師：宮澤洋介、清水隆寿

⑥大町自然探検隊（担当：藤田達也）

- a. 開催日：令和4年4月～令和5年3月 ※計8回
 - ・4月30日（土）「バードウォッチング」 参加人数14人
 - ・7月23日（土）「水辺の生き物観察」参加人数2人
 - ・9月10日（土）「バードウォッチング」 参加人数9人
 - ・10月1日（土）「バードウォッチング」 参加人数9人
 - ・12月10日（土）「バードウォッチング」 参加人数16人
 - ・1月21日（土）「バードウォッチング」 仁科三湖 参加人数11人
 - ・2月4日（土）「アニマルトラッキング」 鷹狩山 参加人数6人
 - ・3月19日（日）「バードウォッチング」 大峯高原 参加人数8人
- b. 場所：大町市内および周辺地域
- c. 概要：大町市内周辺には山岳・里山・市街地・河川・湖・溪流などのバリエーション豊かな自然環境が存在するものの、それらを学ぶイベントが少なく、十分に活用されているとは言えない状況にある。そこで、①自然に対して興味を持つきっかけ作り、②自然環境を学習する機会の提供、③自然を観察するための経験値の向上、④博物館の利用頻度の向上（リピーターの確保）を目的として、野生動物観察のイベントを開催する。
- d. 所見：博物館の2階展示室で紹介する岳・野・湖・山のフィールドにおいて野外観察会を行い、自然の豊かさを学んでいただく機会としており、自然を理解するための重要な役割を担っている。環境の違いによる生き物の生息状況を観察することは、自然の貴重さを学ぶ機会になるとともに、博物館内の展示の意味を知っていただくことにも繋げられる。後半になるにつれてリピーターの割合が高まり、1月21日の開催日に至ってはリピーター率100%となった。また、松本市や長野市、白馬村からの参加者も多く、周辺地域で自然に興味を持つ県民が多いことがうかがえることから、需要は高いと考えられる。

⑦ライチョウイベント「ライチョウのこれからを考える」（担当：栗林勇太）

a. 開催日時・場所

【写真展】

- | | | |
|-------|---------|-------------|
| 2月21日 | 14時～17時 | （山岳博物館 講堂） |
| 22日 | 9時～17時 | （山岳博物館 講堂） |
| 23日 | 9時～16時 | （山岳博物館 講堂） |
| 25日 | 9時～18時 | （サン・アルプス大町） |
| 26日 | 9時～16時 | （サン・アルプス大町） |

※）上記の時間帯に、ライチョウ関連のグッズ販売を中村氏のスタッフが実施。会場は21～23日

は当館1階ロビー、25・26日はサン・アルプス大町大会議室の入り口付近。

【開会式】

2月21日16時30分～17時（山岳博物館 講堂）

【講演会&ミニコンサート】

2月25日10時30分～15時30分（サン・アルプス大町）

2月26日11時～15時30分（サン・アルプス大町）

コンサートは、25日：フルート&箏、26日：フルート&ピアノ

【山博ライチョウガイド】

2月23日10時～16時（山岳博物館 附属園ライチョウ舎）

2月26日10時～16時（山岳博物館 附属園ライチョウ舎）

【中村先生とトーク】

2月21日16時～17時（山岳博物館）

2月25・26日 講演会終了後～17時（サン・アルプス大町）

※）上記を予定していたが、22日、23日の写真展実施時間にも、グッズ販売のブースにて中村氏が待機し、来館者にサイン対応等をしていた。

b. 共 催：中村浩志国際鳥類研究所

c. 参加人数：

写真展（博物館会場）：108人

山博ライチョウガイド：192人

写真展（サン・アルプス大町会場）・講演会・ミニコンサート：305人

計：605人

d. 概 要：ライチョウに関する各種イベントを通じ、ライチョウの生態などをわかりやすく説明するとともに、ライチョウの現状や、保全の最前線の取り組み等を紹介することで、主に市民を対象として、多くの方にライチョウやその保全について関心を持ってもらうことを目的とした。

【写真展】

中村浩志氏が撮影した生息地でのライチョウの写真や、生息環境の写真を91点展示。同時に、長野県が作成したライチョウのPRビデオも上映。

【開会式】

当館職員と、中村氏のスタッフ及び友の会が集まり、イベントの開催に先立ち開会式を行った（このほかに、2名の一般参加があった）。主催者挨拶として、当館館長及び中村氏があいさつを行ったのち、中村氏が羽田健三氏の話や、現在のライチョウの状況について、15分ほどで簡単な講演を行った。（司会・進行）栗林、（挨拶）鈴木館長、中村氏

【講演会&ミニコンサート】

ライチョウの生態や、現在行われているライチョウ保全の最前線について、中村氏が講演を、山岳博物館における過去～現在のライチョウ飼育について、栗林が講演を行った。講演の合間に、フルート・箏・ピアノの演奏を実施した。

講演内容

i 「解明されたライチョウの生態と進化」（中村）

ii 「中央アルプスにライチョウを復活させる」（中村）

iii 「山博ライチョウ飼育の挑戦」（栗林）

※1日目、2日目とも講演の内容は同じ。

コンサート

恩田美佳：フルート（1、2日目）

押切さち：箏（1日目）

市川美穂：ピアノ（2日目）

【山博ライチョウガイド】

附属園ライチョウ舎にて、山岳博物館友の会によるライチョウのガイドを実施。

【中村先生とトーク】

中村氏と直に話をしたり、サインをしたりするブースを設けた。

e. 所 見：市民を始め、多くの方にライチョウについて知ってもらうことができた。想像以上に参加者が多く、ライチョウに多くの人が関心を持っていることを改めて認識し、普及啓発の必要性を

実感した。ライチョウやそれを取り巻く自然環境について、関心喚起を図ることを目的としていた。結果、多くの方にライチョウの生態や保全等について知ってもらう機会が提供できた。冬期のため集客に不安があり、講演会は2日間で70～80人程度を見込んでいたが、それを大きく上回る参加者が見られた。また講演会以外でも各イベントに多くの人に参加してもらえた。26日は、講演会を聞いた後にガイドを聞きに博物館に来る人も多かったため、同時にイベントを行うことも有効であったと考える。写真展に関しては、博物館→サン・アルプスへの移動や設置等の準備に、時間がかかった。

⑧研究報告&座談会（※座談会については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

「山のサイエンスカフェ in さんぱく 2023」さんぱくゼミナール（担当：千葉悟志）

- ・開催日：【前期】令和5年3月5日（日）・【後期】3月12日（日）
- ・時間：前・後期両日とも 午後1時30分～午後4時
- ・場所：市立大町山岳博物館 講堂
- ・参加人数：【前期】大人29人、【後期】30人 合計59人（定員各回30人）
- ・研究報告：【前期】「大町市におけるアライグマ最前線」（藤田）、「居谷里湿原にみるミズバショウとリュウキンカの暮らし」（千葉）、「山岳地域と人里での気候変動の様相」（鈴木）
【後期】「大町とオオカミ」（栗林）、「仁科山地の地質と斜面崩壊」（太田）、「北安曇地方の旧石器時代の人々の暮らし」（清水）
- ・概要：当館の調査研究事業について、具体的な内容を市民や地域住民にわかりやすく伝えることにより、その学術的な価値を広く社会に認知してもらい、地域における山岳文化の醸成に結びつける目的で企画・開催。

当館の職員が前年度の『研究紀要』誌上で発表したり、当年度の「さんぱく研究最前線」でパネル展示を行ったりした北アルプス周辺地域の自然科学と人文・社会科学の諸分野における調査研究、あるいは収蔵資料に関する各種情報等について研究報告・話題提供を行う。

本催しは冬期間の博物館利用者数の増加へつながるように、前期・後期の2回にわたって2週連続で実施するスタイルとした。

(2) 学校との連携・融合（調整：千葉悟志・藤田達也）

期 日	内容（館外の実施場所）	対象校・学年など	人数（人）	指 導
5月26日	館内見学	東京コミュニケーションアート専門学校	13	栗林
6月20日	出張講座 ライチョウについて（伊那市）	西箕輪中2年	60	栗林
6月2日	青木湖キャンプ自然観察指導（大町市）	大町南小5年（2クラス）	51	清水隆・千葉
6月14日	館内見学	松川小学校5年（3クラス）	81	清水博・清水隆・千葉・栗林
6月14日	青木湖キャンプ自然観察指導（大町市）	松川小学校5年（3クラス）	81	清水・千葉
6月24日	青木湖キャンプ自然観察指導（大町市）	大町西小学校5年（2クラス）	42	清水隆・千葉
6月28日	学校連携授業「市の様子」	大町北小学校3年（1クラス）	31	清水隆
7月7日	親海湿原自然観察事前学習（大町市）	大町岳陽高1年（2クラス）	78	千葉
7月8日	親海湿原自然観察学習（大町市）	大町岳陽高1年（2クラス）	78	千葉
7月14日	学校連携授業「市の様子」	大町東小3年（1クラス）	27	清水隆

7月19日	青木湖キャンプ自然観察指導(大町市)	大町北小5年(2クラス)	51	清水隆・栗林
10月20日	総合的な学習	大町第一中1年	13	太田
10月21日	学校連携授業「地域と人の暮らし」	大町東小4年(1クラス)	19	清水隆
10月27日	学校連携授業「大地のつくりと変化」	美麻小中6年	3	太田
10月27日	学校連携授業「からだのつくり」「生き物の暮らし」	八坂小4年	8	藤田
11月18日	総合的な時間	仁科台中1年	19	清水隆・太田・千葉・栗林
11月22日	学校連携授業「からだのつくり」「生き物の暮らし」	大町南小4年(1クラス)	36	栗林・藤田
11月25日	学校連携授業「大地のつくりと変化」	大町東小6年(1クラス)	26	太田
11月29日	学校連携授業「市の様子」	大町南小3年(1クラス)	37	清水隆
2月2日	自然観察指導(大町市)	大町西小	20	藤田
2月7日	学校連携授業「郷土に伝わる願い」	大町西小4年(2クラス)	41	清水隆
2月17日	学校連携授業「市の様子」	八坂小3年	5	清水隆
2月21日	学校連携授業「地域と人の暮らし」	美麻小中3年	7	清水隆
3月23～24日	職業体験学習	琉球大学	1	藤田
実施回数：24回(延べ25日)		学校数：12校	人数合計：828人 (延べ829人)	

①「学校との連携授業」(市内小学校の博物館活用事業)(調整：藤田達也)

a. 実施日：上記のとおり ※6～2月の間に、市内6小学校により延べ10回実施

b. 場所：理科：2階「山と生きもの」「山の成り立ち」、付属園 ほか
社会科：1階「山と人」、3階「展望ラウンジ」

c. 参加者数：市内小学生 延べ240人(内訳：3年生107人、4年生104人、6年生29人)
※このほか各小学校教員先生方の引率あり

d. 概要：学校教育と社会教育との連携・融合(学社連携・融合)推進のひとつとして、博物館の展示を利用した学校との連携授業を実施。平成22年度から2ヶ年、大町南小学校をモデル校に4年生の理科授業(動物)を年1回実施し、授業プログラムやワークシートを作成して検証・改良を行った。それをふまえ、平成24年度から新たに実施希望校を募り、市内小学校の博物館活用事業を本格実施している。平成29年度からは、各教科の各学習プログラムを追加作成し、大幅に増加。これにより、さらに実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の一層の定着をめざす。同時に、博物館の所蔵資料や専門員・学芸員といった職員を学校の授業で活用していただくことで、児童・生徒の学習理解度の向上が期待でき、市民により身近な博物館をめざす。

ア 連携授業プログラム1 理科・4学年「生き物の暮らし」「人の体のつくりと運動」
(学習素材：ライチョウ、ニホンカモシカ、ツキノワグマ)

イ 連携授業プログラム2 社会科・6学年「土地(大地)のつくりと変化」
(学習素材：化石、北アルプスの地形・地質)

ウ 連携授業プログラム3 社会科・3学年「わたしたちのまち みんなのまち ―市の様子―」
(学習素材：床面地図(空からマップ)、3階からの展望(市街地周辺)など)

- エ 連携授業 プログラム 4 社会科・3 学年「かわってきた人々の暮らし —古い道具と昔の暮らし—」
(学習素材：山や雪にかかわる古い道具 (民具) の展示)
- オ 連携授業 プログラム 5 社会科・4 学年「きょう土を開く (きょう土に伝わる願い)」
(学習素材：地域の発展に尽くした先人・百瀬慎太郎)
- カ 連携授業 プログラム 6 社会科・4 学年「わたしたちの県 —県の広がり・特色のある地いきと人々の暮らし—」
(学習素材：床面地図 (空からマップ)、3 階からの展望 (北アルプス後立山連峰周辺) など)

e. 所 見： 29 年度からは、各教科の各学習プログラムを追加作成し、大幅に増加。これにより実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の一層の定着をめざした。

(3) 博物館実習の受入 (調整：藤田達也)

期 日	実 習 者	人 員	指 導
7 月 30 日 (土) ～8 月 4 日 (木) ※計 6 日間	日本女子大学 人間社会学部 4 年生 信州大学 理学部 4 年生 松本大学 総合経営学部 4 年生 信州大学 人文部 4 年生 松本大学 総合経営学部 4 年生	5 人	鈴木・清水 千葉・栗林・ 藤田

博物館法施行規則第 2 条 (博物館実習) 第 1 項の規定にもとづき、学芸員の有資格者となるために大学で修得すべき博物館関係科目単位の一つである博物館実習を希望する大学生の受け入れを行った。当館での博物館実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、実習を実施した。教育普及を中心に資料整理や受付業務等の博物館業務全体について実習を行い、地方における地域博物館の役割を体験的に学習していただいた。

当館での実習志望の理由は例年と同様であり、「山岳」をテーマにした博物館である当館での実習を希望したため、全国的にもユニークなテーマの当館が実習先として学生に選ばれた結果である。また、学生が受け入れ先の博物館等を探すことは困難のようで、毎年受け入れ実績がある当館への学生のニーズは高いことがうかがえる。計画に基づき、一つの事業に限らず網羅的に博物館全体の業務を経験していただくことで、学芸員になるための単位取得のためだけでなく、博物館における多岐にわたる事業の理解と、地方における地域博物館の役割について深く理解していただけた。当館としては博物館実習を教育普及活動の一環として位置づけ、生涯学習支援・社会教育の推進につながるものとして実施している。また、学生へ指導することによって、自らが担当している業務について役割や意義をあらためて見直す機会にもなる。実施方法として、実習の実施に際して各担当者と調整し、実習期間中の 1 日ごとの詳細な学習計画を作成し、事前に実習生に送付したことで、指導担当職員と学生の両方で個々の実習日の概要について把握できたので効果的であった。

毎年、当館公式ウェブサイト担当学芸員によって、当館ウェブサイト上に実習生の感想を掲載している。サイトに掲載された過去の実習感想を読んで申し込みを行う学生が多く、今回の実習生も全員がこれらを読んでおり、実習館選定の判断材料のひとつとしていた。今年度も実習生に感想文を依頼し、サイトに掲載して広く周知・宣伝を行っている。

(4) 学習会等への協力 (調整：千葉悟志)

期 日	内容 (館外の実施場所)	主 催	人数 (人)	指 導
4 月 21 日	冒頭展示説明	大町市農林水産課	6	清水隆
5 月 5 日	居谷里湿原自然観察会	大町市文化財センター	26	千葉
5 月 8 日	出張講座 (大町市)	大町山岳博物館友の会	17	藤田
5 月 15 日	展示解説	長野県山岳協会	30	藤田
5 月 15 日	雪形ウォッチング	雪形まつり実行委員会	9	清水隆
5 月 22 日	鷹狩山バードウォッチング	長野県山岳協会・長野県山岳総合センター	20	栗林
5 月 29 日	雪形ウォッチング	雪形まつり実行委員会	11	清水隆
6 月 12 日	出張講座 (大町市・白馬村)	大町山岳博物館友の会	22	太田
6 月 12 日	出張講座 (大町市)	大町市環境衛生課	12	千葉

7月8日	企画展解説	池田町消費者の会	6	鈴木
7月23日	出張講座（松本市）	大町山岳博物館友の会	18	千葉
8月19日	出張講座（大町市）	大町市農林水産課	33	千葉
9月11日	出張講座（大町市）	大町市文化財センター	27	太田
10月2日	自然観察指導	長野県植物研究会	8	千葉
10月7日	自然観察指導	山村留学センター	2	栗林
10月26日	自然観察指導	山村留学センター	2	栗林
10月29日	自然観察指導	山村留学センター	2	栗林
10月29日	出張講座（大町市・小川村）	大町山岳博物館友の会	20	清水隆
11月3日	自然観察指導	山村留学センター	2	栗林
11月6日	展示解説	糸魚川ジオパークガイドの会	11	清水隆
11月6日	冒頭展示説明	東日本ビューツーリズム	30	藤田
11月29日	出張講座（大町市）	美麻支所	25	藤田
12月7日	講座	長野県林業大学校	18	鈴木・栗林
2月11日	出張講座（飯田市・リモート）	飯田市美術博物館	30	千葉
3月4日	自然観察指導	信州野鳥の会	22	栗林
実施回数：25回（延べ24日）		件数：24団体	人数合計： 409人	

前記以外に、下記の各種事業に協力した。

①第10回 信州・大町 山の子村キャンプ〔福島の子どもたち保養プログラム〕（調整：清水隆寿）

本年度も福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能の汚染被害を受けている子ども達に、心身の保養をしていただく環境を大町に整えて過ごすことを目的とした信州・大町 山の子村キャンプ実行委員会に共催として加わった。

今年で10回目の筋目の開催となる。参加者は毎年小学生20名であり、寄付等は100社以上に及び、ボランティアは大学生など60名以上が協力し、事前の準備から、当日の運営、片付けなどにあたっていただいている。

- a. 主 催：信州・大町 山の子キャンプ実行委員会（実行委員長 荒山雄大氏）
- b. 共 催：大町市教育委員会（主管：市立大町山岳博物館）
- c. 後 援：山の子クラブ、大町市、大町市社会福祉協議会、長野県労働金庫大町支店、北アルプス医療センターあづみ病院 会ほか
- d. 協力団体：山の子クラブ、企業組合山仕事創造舎、大町山岳博物館友の会ほか
- e. 開催日：令和4年8月7日（日）～8月13日（土） 6泊7日

(5) 博物館資料の特別利用（調整：千葉悟志）

①館内利用 6件（このほか、山岳図書資料の館内利用81件）

②館外利用 19件 ※内訳は下記のとおり（このほか、山岳図書資料の館外利用11件、長期貸出による館外利用4件）

期 間	目 的	利用者	利用資料・点数
4月20日～	企画展解説 書掲載	糸魚川フォッサマグナ ミュージアム	ライチョウのはく製写真1点
7月15日～8月1日	雑誌掲載	(株) マガジンハウス	博物館館内写真1点
8月25日～	雑誌掲載	(株) プラルト	対山館（画像）ほか4点
12月	テレビ放映	NHK	日本アルプスの登山と探検 1点
10月～	雑誌掲載	山と溪谷社	山川勇一郎画ほか7点
9月中	テレビ放映	NHK	博物館外観ほか1点
6月13日～9月28日	企画展展示	ミュージアムパーク茨 城県自然博物館	ライチョウのはく製ほか2点

11月1日	テレビ放映	テレビ信州	登山写真ほか5点
2月～	雑誌掲載	(株) K&B パブリッ シャーズ	博物館館内展示写真1点
10月～	ナビゲーション掲載	(株) ナビタイムジャパン	博物館外観写真ほか3点
9月1日～11月中旬	企画展展示	富山県 [立山博物館]	宝伝坊証印1点
12月15日～	紀要掲載	豊科郷土博物館	フンゴミ (画像) 2点
12月7日	テレビ放映	長野朝日放送	イワナを焼き枯らす (写真) ほか5点
2月15日～	雑誌掲載	朝日新聞長野総局	佐々成政峠越え (イラスト) ほか1点
2月15日～5月末	企画展展示	豊科郷土博物館	フンゴミ 2点
2月26日～	サイト掲載	長野県観光協会	博物館外観写真ほか3点
3月6日～	企画展展示	長谷川恒男記念庫	登山靴1点
2月11日～	雑誌掲載	山と溪谷社	リュックサック写真ほか1点
3月～4月末	雑誌掲載	一般社団法人 霞会館	白馬岳石室付近記念写真ほか6点

③長期貸出 4件

期 間	目 的	利用者	利用資料・点数
昭和 55 年 7 月 21 日～	常設展示	京都市動物園	カモシカ骨格標本 2 点
昭和 56 年 7 月 1 日～	教育普及	新潟県	ライチョウ剥製 2 点
平成 18 年 11 月 15 日～	常設展示	富山市科学博物館	ライチョウ剥製 1 点
平成 28 年 4 月 28 日～	常設展示	長谷川恒男記念庫	長谷川恒男使用登山靴 1 点

※これらのほか、報道機関・雑誌編集社などによる各種取材などがあり、随時これらに協力した。
なお、社会教育施設・研究機関・個人などによる各種照会については別途記載のとおり。

(6) 山岳図書資料館の利用 (担当：清水隆寿・降旗秀子)

開館日数	利用者数※			資料閲覧	資料貸出		利用時間
	市内	県内	県外	件数	件数	点数	
315 日	3 人	23 人	55 人	79 件	11 件	53 点	計 61 時間 44 分
	計 81 人			計 90 件			

※令和 3 年度利用者数 41 人と比較し、令和 4 年度の利用者数は 81 人となり、198%の増加。

※資料閲覧と資料貸出との同時利用者を含む。

3 執筆・出版

(1) 出版

①出版物

a. 広報誌『山と博物館』(担当：藤田達也)

本誌は、当館創立 5 年後の昭和 31 年 2 月 20 日「やまと博物館」として第 1 号を創刊。当初は当館後援会発行による有料による月刊の発行物として、旬の話題や保護動物の紹介、博物館の出来事などの記事を掲載していた。その後、「山と博物館」に改称。当館発行の月刊機関誌として位置付けられるようになり、各分野の専門家や職員等による学術色の濃い読み物的な内容の文章を掲載するようになる。時代を経るにつれ、前述のような内容の紹介に誌面を多く割くようになったが、平成 26 年 3 月の展示改修によるリニューアルオープンを機に、創刊当初に立ち返り、博物館の動きや北アルプスの話題などをより分かりやすく、より広くお伝えしようと考え、本誌の編集方針を大幅に見直し

て誌面を刷新。第 59 巻第 3 号（2014 年 4 月号）から、無料の広報誌として位置づけて発行することとした。これは平成 27 年度の『研究紀要』創刊を見越して学術的な文書の掲載はそちらに譲り、速報的なお知らせ等は平成 26 年 3 月の展示改修を機にサイトをリニューアルした公式ホームページを最大限に活用するといった広報・宣伝を含め、館全体の情報発信体制を見直す中でのことであった。平成 30 年度からは、これまでの月刊から季刊に変更、夏・秋・冬・春の年 4 回とし第 63 巻第 4 号（2018 夏号）から第 64 巻第 1 号（2019 春号）を発行した。これは、大町市が山岳文化都市宣言のまちであることから、市民の皆様にご覧をより身近に感じていただけるように、毎号の誌面を増やして今まで以上に内容を充実し、市内全戸の皆様方に配布することとしたことによる。

本年度は、第 67 巻第 2 号（2022 夏号）〔発行日：令和 4 年 6 月 22 日〕、第 67 巻第 3 号（2022 秋号）〔発行日：令和 4 年 9 月 27 日〕、第 67 巻第 4 号（2022 冬号）〔発行日：令和 3 年 12 月 20 日〕、第 68 巻第 1 号（2023 春）〔発行日：令和 5 年 3 月 22 日〕を編集・発行した。

各号の発行部数：10,500 部、体裁：A4 判、8 頁、カラー刷り。毎号、『広報おおまち』とともに組み込み文書として市内全戸へ配布し、市内の小中学校や社会教育施設・文化施設等へ配布・設置したほか、県内外の関係者や関係機関等への配布を行った。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

b. 『年報』（担当：清水隆寿）

『市立大町山岳博物館 令和 3 年度 年報』（発行日：令和 4 年 7 月 30 日、発行部数：200 部、体裁：A4 判、47 頁、単色刷り）を編集・発行し、関係機関への配布を行った。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

c. 『研究紀要』（担当：清水博文）

当館では、調査研究事業の一層の充実を図ることで、学術的な成果情報を資料収集保管事業や教育普及事業へ展開するという博物館活動の良好な循環体制の構築を進めるため、北アルプスと周辺地域の自然科学、人文・社会科学諸分野の調査研究に関する学術的な成果情報を収録する『研究紀要』を平成 27 年度に創刊した。

本年度、『市立大町山岳博物館研究紀要 第 8 号』（発行日：令和 5 年 3 月 31 日、発行部数：本誌 500 部、本誌体裁：A4 判・カラー、63 頁）を編集・発行し、関係者や関係機関等へ配布した。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

②販売中の出版物（調整：清水隆寿）

現在販売中の当館編纂による出版物は以下の通り。 ※完売のもの除く（令和 5 年 3 月 31 日現在）

書 名	発 行 先	発行年	備 考
H27 年度 企画展 北アルプス山麓の自然に蝶が舞う	市立大町山岳博物館	平成 28 年	館内にて販売中
北アルプス登山史資料 2 一白馬岳周辺登山史一	〃	平成 24 年	〃
H24 年度 企画展 大地はなぞだらけ	〃	平成 24 年	〃
北アルプス誕生と高山植物	〃	令和 4 年	〃
研究紀要 第 4 号	〃	令和元年	〃
研究紀要 第 6 号	〃	令和 3 年	〃
研究紀要 第 7 号	〃	令和 4 年	〃

4 広報・宣伝（調整：藤田達也）

博物館の施設利用案内や各種催し案内、博物館の活動紹介や魅力紹介を広く周知することで、より多くの方々に博物館を知っていただき、興味・関心を持っていただいて博物館を利用していただくため、公式ウェブサイト管理（更新・充実）し、翌年度の年間行事予定のチラシを印刷・配布した。

公式ウェブサイトや公式 SNS の管理のほか、年間行事チラシ印刷・配布を通じ、博物館の認知度・関心度を高め、利用者増を図りたい。これにより、市民や地域住民、登山者や観光旅行者等のだれもが、いつでも、どこでも気軽に利用していただける場所として広く親しまれる博物館づくりにつなげ、地域における博物館の存在価値を一層高めていきたい。

ただし、広報・宣伝における効果的な情報発信の内容や手法等については今後検討し、常時見直していく必要がある。博物館全体の広報・宣伝（情報提供）体制を再確認し、より効果的な体制を構築することが急務である。そのためにも将来を見据えた博物館マネジメントを戦略的に進めることが重要である。そのためまずは現状を把握するため、観光施設としての面に重点を置いた市場調査の実施を検討することも一案と考える。

(1) 公式ウェブサイト管理（担当：藤田達也）

インターネット媒体として、公式ウェブサイト上の掲載情報について企画展等の開催等にあわせて随時更新を行った。 URL：<https://www.omachi-sanpaku.com>

なお、公式ウェブサイト以外にも、大町市や安曇野アートラインの公式ウェブサイトにおいて、各担当が必要に応じて情報発信を随時行った。

年 度	プレビュー数 (昨年対比)	閲覧ユーザー数（人）	備 考
平成 26 年 (2014) 4 月	157,667	(22454)	山岳博物館博物館公式ウェブサイト使用開始年
平成 27 年 (2015) 4 月	179,795 (114%)	(28503)	
平成 28 年 (2016) 4 月	191,864 (107%)	(30550)	
平成 29 年 (2017) 4 月	166,611 (87%)	31090	
平成 30 年 (2018) 4 月	177,668 (107%)		
令和元年 (2019) 4 月	199,295 (112%)		
令和 2 年 (2020) 4 月	165,434 (83%)		
令和 3 年 (2021) 4 月	192,329 (116%)	44695	
令和 4 年 (2022) 4 月	203,970 (106%)	50476	

(2) SNS を用いた情報発信（担当：藤田達也）

近年 SNS を用いた情報発信が企業などでも行われており、大町市でも文化会館や市民活動サポートセンターで運用が始まっている。当館では 2019 年 5 月から始めている Facebook ページの運用に加えて、twitter、instagram を 2020 年 5 月から開始した。

主にイベント情報の告知、収蔵品の紹介、館周辺環境に関する内容についての情報を発信した。より効果的な発信頻度や内容については随時検討を続ける。

SNS の種類	開始年月	フォロワー (昨年対比)	年間更新回数 (昨年対比)	プレビュー数 (昨年対比)
Facebook（博物館）	2019 年 5 月	245 (130%)	29 (66%)	13,153 (97%)
Twitter（博物館）	2020 年 5 月	1178 (169%)	48 (67%)	284,041 (82%)
Twitter（付属園）	2020 年 5 月	5666 (187%)	321 (306%)	8,005,691 (65%)
Instagram（付属園）	2020 年 5 月	1480 (206%)	94 (165%)	—

※2023 年 3 月末日時点

(3) 年間行事チラシ印刷・配布（担当：藤田達也）

紙媒体として、博物館における翌 2023 年度の年間行事予定の情報等を掲載するチラシを印刷（15,000 部、A4 判ヨコ両面カラー3 折）した。また、当該年度に入り、前年度に印刷した年間行事チラシを大北管内の小中学校の全児童生徒を含め、県内外の関係各所に配布した。

なお、各催しの個別情報については、各担当から大町市の広報誌「広報おおまち」や子ども・親子向け情報誌「がったつうしん」（大町市子どもセンター編集・発行）によって市民や近隣地域住民向け、「情報提供書」によって市内・県内の各報道機関向けに情報発信を行ったほか、県内や全国の博物館関係誌や山岳関係誌等への情報発信を行うなどした。

(4) 観光施設としての各種照会等の対応（担当：藤田達也）

旅行案内雑誌等の観光施設を主とした記事掲載に関わる照会等について、情報提供や記事校正等の対応を随時行った。

5 大町博物館連絡会（担当：鈴木啓助・清水隆寿）

大町博物館連絡会は加盟館 11 館で構成。例年、会長は大町エネルギー博物館長、事務局（事務局）は当館が担っている。

当館では同連絡会加盟館（理事：館長、幹事〈事務局員〉：副館長）として理事会及び総会を準備・運営するとともに出席し、各種事業の企画立案・準備・実施に携わった。主な事業として、加盟館 11 館から会費、日帰り温泉施設 9 施設から掲載協力金、大町市観光協会から印刷負担金を収納して「おおまち博物館めぐり案内図（2023 年版）」4 万 2500 部を印刷作成。近隣のホテル・旅館・観光案内所等に配布したほか、大町市観光課・観光協会を通じて県外での観光 PR イベントや旅行者・旅行業代理店業者向けの商談会などに提供し、誘客を図った。また、7 年目となった「おおまち博物館めぐりスタンプラリー」を 4 月 1 日から 11 月 30 日まで計画、実施をした。この取り組みは、各館への周遊誘客につなげることで大町市を“博物館のまち”として周知する方策として一定の成果があり、今後も継続していく方針である。

なお本年度の連絡会総会及び理事会は、令和 4 年 6 月 7 日に山岳博物館講堂で開催、事業報告、会計監査報告、来年度事業計画及び予算などが開催された。

6 安曇野アートライン推進協議会 美術館・博物館部会（担当：鈴木啓助・清水隆寿）

安曇野アートライン推進協議会は、安曇野周辺的美術館・博物館等 19 館で構成。本年度、会長は大町市長、事務局は大町市教育委員会が担い（任期 2 年の 1 年目）、同協議会の実働を担う美術館・博物館部会の代表館は、大町山岳博物館が務めた（本年度から代表館は 2 年任期の 2 年目）。

当館では同協議会加盟館（幹事：館長、部会担当：副館長）として幹事会及び総会、部会会議（年間 6 回）に開催した。別記「第 17 回 安曇野アートライン展」の各催しに参画した。また第 20 回 安曇野アートラインサマースクールまた小谷中学校への出張美術展を開催した。併せてアートラインマップやサマースクールチラシの編集発行・配布にかかわる事務作業を実施した。加盟館の研修は、「長野県立美術館・おぶせミュージアム中島千波館」の見学を行った。

7 大町山岳博物館友の会（担当：藤田達也・清水隆寿）

大町山岳博物館友の会は、会員の知識の向上をはかるとともに、山岳博物館の種々の事業に協力することを目的とし、自然観察会、例会・講演会、会報の発行、博物館の事業に参加協力する団体である。

(1) 組織

①役員

a. 会長 宮澤洋介

b. 副会長 丸山優子

c. 運営部 部長：川崎 晃

部員：川崎祐子（会計担当）、丸山卓哉（編集担当）、仙波美代子、若林みどり、西田 均、

有川美保子

d. 事務局 鈴木啓助、清水博文、清水隆寿、千葉悟志、栗林勇人、藤田達也（主務）

e. 監査 宮田京子、園田弘美

f. 顧問 長沢正彦

②友の会会員 構成（令和5年3月31日現在）

会員種別	令和4年度 会員数	会員種別	会員数	会員種別	会員数
ファミリー会員	58 家族（191人）	個人会員	59人	学生会員	0人
賛助会員	1 団体・1人	終身会員	2人	名誉会員	1人
合計	1 団体・254人（前年度19人増）				

(2) 運営部

①運営部会 全9回開催（会場：山岳博物館 宿直室・講堂）

②行事（主催事業）

実施日	参加者	行事名・実施場所など
令和4年4月24日（日）	参加者数 30名	大町山岳博物館友の会総会 於：博物館講堂（担当：藤田達也）
令和4年5月8日（日）	募集人員 20名 参加者数 24名 参加率 120%	春の観察会 in 居谷里湿原 （講師：千葉悟志）
令和4年6月12日（日）	募集人員 20名 参加者数 22名 参加率 110%	佐野坂丘陵と親海湿原の成り立ちを歩く （講師：太田勝一）
令和4年6月12日（日）	募集人員 20名 参加者数 22名 参加率 110%	鹿島川・大冷沢の源流を探る （講師：西田均ほか）
令和4年10月29日（土）	募集人員 15名 参加者数 16名 参加率 107%	古道・善光寺道を歩く（Ⅱ） （講師：清水隆寿）
令和5年2月23日（木・祝）	募集人員 15名 参加者数 16名 参加率 107%	アニマルトラッキングー中山高原ー （講師：藤田達也）

※参加者人数には、講師・スタッフを含む。

③協力（共催事業）

実施日	協力内容	行事名など
令和4年4月24日（日）	募集人員 30名 参加者数 30名 参加率 100%	山岳博物館友の会総会記念講演会 演題「山のお花畑が教えてくれる生き物 と生き物の繋がり」 講師：石井博氏（富山大学）

(3) 広報・宣伝

①山博を通したリーフレットによる広報活動（制作数：8,000枚）

②博物館公式webサイト、博物館広報誌「山と博物館」を通じた広報活動

(4) 出版

会報「ゆきつばき通信」

号数	発行日	主な内容
191号	令和4年5月21日(土)	(行事案内) 自然観察会 佐野坂丘陵と親海湿原の成り立ちを歩く (報告) 友の会総会、友の会総会記念講演会、春の観察会、居谷里湿原、烏帽子の会、ボランティアの会
192号	令和4年7月24日(日)	(行事案内) 鹿島川・大冷沢の源流を探る、善光寺街道を歩いてみよう。アゲイン! (報告) 佐野坂丘陵と親海湿原の成り立ちを歩く、烏帽子の会、ボランティアの会
193号	令和4年11月27日(日)	(報告) 鹿島川・大冷沢源流を探る、善光寺街道を歩いてみよう。アゲイン!、企画展 山書の世界 さんばくゼミナール「青木湖が記録した過去 3.4 万年間の日本の気候変動」、仁科三湖の成り立ち地質見学会、バードウォッチング(居谷里湿原)道を楽しむ、人生を楽しむ、烏帽子の会、ボランティアの会
194号	令和5年2月5日(日)	(行事案内) 友の会総会、総会記念講演会「虫の眼で見た大町・安曇野の自然」、ライチョウのこれからを考える、山のサイエンスカフェ in さんばく 2023 (報告) バードウォッチング(木崎湖)

※その他、「お知らせ版」を臨時発行

(4) サークル活動

①烏帽子の会：28名(令和5年3月31日現在)

活動日	内容	参加者
令和4年5月28日(土)	光城山・長峰山(安曇野市) 総会	18人
令和4年7月23日(土)	乗鞍豊平周辺(花めぐりと合同)	21人
令和4年10月1日(土)	御嶽山(木曾町)	13人
令和4年11月20日(日)	大渚山(小谷村)	中止
令和5年2月4日(日)	守屋山(諏訪市)	13人
令和5年3月18日(土)	人笠山(富士見町)	中止

②ボランティアの会：26名(令和5年3月31日現在)

項目	活動日	内容	参加者
環境	4月10日～11月22日 (延べ8回)	博物館・付属園・山岳図書資料館周辺の環境整備(封入作業重複日4回)	延べ 81人
封入	5月21日～3月31日 (延べ7回)	「山と博物館」「ゆきつばき通信」その他関係資料等の配布物の封入作業(3回、重複4回)	延べ 21人
博物館事業	4月10日	居谷里湿原遊歩道整備	9人
	5月1日～5月5日	「付属園まつり」受付、ライチョウ舎ガイド、館内ガイド	延べ 22人
	6月19日、9月17日、 3月5日、3月21日	山博ゼミナール受付 サイエンスカフェ受付	延べ 8人
	9月4日、9月10日 1月21日、2月4日	観察会サポート	延べ 5人
	2月23日、2月26日	「ライチョウのこれからを考える」 ライチョウガイド、写真展示・撤収	延べ 28人
研修	11月13日	矢野孝雄先生とバスで大北地方をめぐる 「岳・野・湖・山」フィールド研修会	15人

③花めぐり紀行：11名（令和5年3月31日現在）

活動日	内容	参加者
令和4年4月～令和4年11月	植物さく葉標本づくり	延べ38人
令和4年5月～令和4年7月	高山植物の植え替え	延べ9人

④ 山岳文化研究会：6名（令和5年3月31日現在）

活動日	内容	参加者
令和4年6月8日	役員のみ打合せを行い、本年度の取り組みと来年度の事業計画を作成。	研究会役員のみ

※令和4年度は、新型コロナウイルスが蔓延し、安定しないことから活動を休止。来年度以降の事業計画作成。

8 ライチョウ会議（担当：栗林勇太）

(1) ライチョウ会議

ライチョウ会議（議長：信州大学 中村浩志特任教授）は、日本アルプスとその周辺に生息するライチョウに関する情報交換と、調査及び研究の連携を図ること、ライチョウに関する知識の普及と啓発を行うことを目的として設置された組織である。当館はその事務局を議長より委嘱されており、会議の運営にあたる事務連絡、諸経費の管理を行っている。構成員の運営によって年1～2回程度会議を開催しているが、事務局として当館では、会議開催の調整・通知、会議資料作成などの事務を行っている。

(2) 第20回ライチョウ会議長野県駒ヶ根・宮田大会

ライチョウ会議大会は、大会開催地の関係者を中心に実行委員会を組織して1～2年に1回開催している。当館では大会実行委員長ならび実行委員会事務局と連携して、名義後援依頼や報告書作成などの事務を行っている。この大会では、各分野の研究者・行政等が集まり、ライチョウに関する調査・研究の充実と、現状を把握し具体的な保護活動に結びつけるための意見交換などを行い、連携を強めるとともに、ライチョウについての知識の普及・啓発を行っている。そして、ライチョウをはじめとした野生動植物の生息環境を含めた保護と、人との共存の道を探ることにつながるために毎年開催されている。

昨年度、第20回ライチョウ会議長野県駒ヶ根・宮田大会の開催が決定した。当館は実行委員兼事務局として携わり、実行委員会の開催調整などを行った。同大会については、昨年度の実施を予定していたものの、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年に延期となっていた。下記の内容で実施した。

【実施趣旨】絶滅危惧ⅠB類に指定され、その存続が危ぶまれている日本のライチョウは、中央アルプスでは今から半世紀ほど前に絶滅したとされていた。しかし、2018年7月、登山者により雌1羽が確認され、これをきっかけに2020年度から、環境省を中心に中央アルプスにライチョウを復活させる事業が本格的に開始、昨年には多くの個体の繁殖が確認され、今後、さらに生息範囲が拡大していくことが期待されている。これを契機に、中央アルプスの貴重な自然と、そこで行われている復活事業について広く国民に知っていただきたいという願いにより、本大会を開催した。

【日時と内容】

公開シンポジウム

日時令和4年10月9日 13:30～16:30

会場：駒ヶ根市文化ホール

参加者：約300人

専門家会議

日時：令和4年10月17日 10:00～16:30

会場：駒ヶ根市文化ホール

参加者：約150人

エクスカッション

日時：令和4年10月11日 9:00～17:00

会場：中央アルプス駒ヶ岳周辺

参加者：30人

【実施結果】本大会には、県内外から、のべ約480名が参加し、大人はもちろんのこと、次代を担う世代、特に子ども達にライチョウを通して、自然環境の大切さや、地球温暖化によって生物が受ける影響などを学んでもらうことができた。また、大会を通じて、地元住民の地域愛がより深まることはもちろん、県内外からの来場者に、この地の景色や空気、自然環境の素晴らしさを知ってもらうことができた。

9 長野県山岳総合センターとの連携事業（調整：清水隆寿）

令和4年度は以下の事業を連携して行うこととなり実施した。

(1) わくわくチャレンジ教室「夏休み！たかがり自然探検隊」（担当：清水隆寿・藤田達也）

- a. 主催：長野県山岳総合センター
- b. 協力：市立大町山岳博物館
- c. 開催日：令和4年7月27日（水）～28日（木）
- d. 場所：長野県山岳総合センター、市立大町山岳博物館 講堂
- e. 参加者：定員小学生15人で開催予定であったが、新型新型コロナ拡大防止のため中止した。
- f. 概要：27日に付属園の動物観察、夜の博物館探検を行い、28日に鷹狩山登山を行う予定であったが、新型コロナ拡大防止のため中止した。

(2) 歩いてナゾとき！～仁科三湖はどうできた～（担当：太田勝一）

- a. 主催：長野県山岳総合センター
- b. 協力：市立大町山岳博物館
- c. 開催日：令和4年7月30日（土）
- d. 場所：小熊山周辺
- e. 参加者：募集15人、申込み15人、小学生とその保護者12人（当日キャンセル3人）
- f. 概要：企画展「仁科三湖の成り立ち」に合わせ、山岳総合センターの主催事業として、博物館から講師を派遣して開催した。仁科三湖はそれぞれどのような成因で成り立ったのか、現地を歩くことによって、そのヒントを感じ取っていただこうと実施した。

(3) 山の恵みで工作しよう！（担当：藤田達也）

- a. 主催：長野県山岳総合センター
- b. 協力：市立大町山岳博物館
- c. 開催日：令和4年11月20日（日）
- d. 場所：市立大町山岳博物館 講堂
- e. 参加者：定員は、小学生とその保護者20名であったが、新型コロナ拡大防止のため中止した。

IV 動植物飼育栽培繁殖事業

1 動物飼育繁殖（担当：栗林勇太・藤田達也・小里玲奈・唐澤紗波・辰己萌恵・渡邊咲晴）

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やし、研究をしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見ていただくという考え方を大切に、以下の基本方針を定めている（平成24年度策定）。

- 生体展示・・・生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。
- 教育普及への活用・・・飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。
- 傷病鳥獣の救護・・・傷ついたり病気になったりした野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。
- 希少種の保護・・・希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。
- 施設整備の充実・・・付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

当館の基本理念と上記の基本方針に基づき、付属園（動植物園）では、希少野生動物繁殖事業、アルプス動物園友好提携事業（交換動物）、野生傷病鳥獣救護事業（受託事業）を実施し、それら事業に関わり動物飼育繁殖事業を含む博物館事業（資料収集保管事業、調査研究事業、教育普及事業）を行っている。

現在、希少野生動物繁殖事業ではニホンカモシカとライチョウを飼育し、野生傷病鳥獣救護事業では大町市周辺で救護された野生動物を飼育している。なお、アルプス動物園友好提携事業での交換動物は現在飼育していない。

飼育動物（令和5年3月31日現在）

（単位：個体）

種名	雄	雌	不明	計	種名	雄	雌	不明	計
ニホンカモシカ	2	1		3	トビ			8(8)	8(8)
ハクビシン	1(1)	1(1)		2(2)	フクロウ			1(1)	1(1)
					チョウゲンボウ	1(1)			1(1)
					キジバト			1(1)	1(1)
					スバールバル ライチョウ	2			2
					ライチョウ	4	4		8
計	2(1)	3(1)		5(2)	計	7(1)	4	10(10)	21(11)

・哺乳類 2(1)種・5(2)個体

・鳥類 6(4)種・21(11)個体

合計 8(5)種・26(13)個体

※括弧内の数は救護動物の種数・個体数

(1) 希少野生動物繁殖

当館ではニホンカモシカ、ライチョウ、イヌワシなどの希少野生動物の繁殖に取り組んできた経緯がある。平成28年度よりライチョウの飼育を再開し、同年に乗鞍岳で採卵した卵の孵化と育雛に取り組んだ。以後、毎年繁殖の取り組みを行い、令和4年度はライチョウ及びスバールバルライチョウの繁殖に取り組んだ。

ニホンカモシカについては、当館で飼育中の個体の繁殖は行っていないが、将来的に繁殖を行うことを目指し、本年度埼玉県こども動物自然公園よりオス1頭の受け入れをした。また、横浜市金沢動物園にブリーディングローンで貸し出し中のオスについては、現在繁殖の取り組みが行われている。

①ニホンカモシカ

a. 出生・導入個体

令和4年10月24日に、埼玉県こども動物自然公園よりオスのニホンカモシカ（3歳、愛称：ナグリ）の受け入れ（引き取り）をした。同個体はすでに当館の帰属となっており、以前より引き取りの調整を図っていた。同個体の父親は、ブリーディングローンとして当館から貸し出ししていた個体（オス・愛称クロベ、平成21年～令和3年まで埼玉県に貸し出し）である。付属園のカモシカ放飼

場にて馴致の上、一般公開を行った。

b. 死亡個体

令和4年12月7日に、メスのニホンカモシカ（18歳、登録番号 OMC-110、愛称：オタリ）が、老衰のため死亡した。

c. 転出個体

なし。

d. 今後の計画

飼育個体が老齢となっていることから、展示個体の維持と将来的な繁殖を視野にいれ、本年度引き取りをしたオスとペアになるメスの導入を検討している。

②ライチョウ

a. 概要

ニホンライチョウ及びスバルバルライチョウの繁殖を行った。結果、スバルバルライチョウ1羽の生育に成功した。また、研究協力として、スバルバルライチョウの受精卵の一部を、大阪市立大学に提供した。

b. 繁殖

ニホンライチョウ及びスバルバルライチョウの繁殖を行った。それぞれ1ツガイを形成した。

ニホンライチョウの繁殖は、飼育下個体群の維持や繁殖技術の向上を目的として取り組みを行った。母鳥が産卵期に死亡したことから、人工孵化・育雛の取り組みを行うこととなった。結果、2羽の雛が孵化したものの、孵化後1週間以内に死亡した。解剖した結果、臓器の形成不全（奇形）が見られた。

スバルバルライチョウは、ニホンライチョウの野生復帰に必須となるアイメリア原虫の克服を目的とした研究等に用いられており、引き続き維持をしていく必要がある。しかしながら、国内の飼育下個体群の高齢化が進行していることから、若い個体の創出が喫緊の課題となっている。本年度、ライチョウの繁殖実績のある当館が、スバルバルライチョウの繁殖を行うことがライチョウ保護増殖検討会で決まり、本年度ニホンライチョウにあわせて同亜種の繁殖も行うこととなった。自然抱卵・孵化の取り組みを行った結果、4羽の自然孵化に成功した。その後、自然育雛が順調にいかず、人工育雛に切り替えた。結果1羽の雛が成鳥まで生育した。また、ライチョウ保護増殖事業の一環として、アイメリア原虫の駆虫薬開発等を行っている大阪市立大学に、受精卵の一部を提供した。同亜種の一連の繁殖（同居～育雛まで）は、当館としては初めての試みであった。

c. 死亡個体

令和4年6月4日の夜間から5日の早朝にかけて、メスのライチョウ（国内血統登録番号：N96）の死亡を確認した。日本獣医生命科学大学において病理解剖等を行ったが、決定的な死亡要因は特定に至らなかった。

令和4年6月26日及び同月30日に、それぞれ当歳生まれのライチョウの雛1羽ずつが死亡した。死因については前述の通り。

d. 転出個体 なし

e. 転入個体 なし

(2) 希少野生動物繁殖以外の飼育動物の増減

譲渡や受け入れ、死亡等により下記の動物の増減があった。

月・日	種名	雌雄	記号・愛称	事由
令和4年12月3日	キジバト		ポウ	死亡
令和4年12月16日	アオクビアヒル	雄	セレブ	死亡
令和4年12月21日	スバルバルライチョウ	雌	すいちゃん	死亡

(3) 傷病鳥獣救護

傷病鳥獣救護については、昭和28年頃の付属園併設以降、野生動物の保護や近隣住民への教育的配慮の観点から独自に行ってきたが、平成9年度からは長野県の指導を受けて行うようになり、平

成 17 年度からは長野県の野生傷病鳥獣救護事業委託の受託によって行っており、現在、大北地域における野生傷病鳥獣救護施設としてケガや病気の野生動物を収容している。

しかし、近年のライチョウの飼育再開に伴い、防疫上の観点や関係法令等に基づいた適切な対応を考慮し、平成 27 年度以降、傷病鳥獣の新規受け入れを行っていない。なお、平成 26 年度までに収容された傷病鳥獣については引き続き保護・飼養を行い、救護事業への寄与を継続して行っている。

2 植物栽培繁殖 (担当：千葉悟志)

(1) 栽培植物

①栽培植物の増減

増：なし

減：ズダヤクシュ、ミヤマコウゾリナ

②栽培植物

アズミノヘラオモダカ (長野県絶滅危惧 I A 類)、トガクシソウ (長野県絶滅危惧 I A 類)、ビッチュウフウロ (長野県絶滅危惧 I B 類)、サクラソウ (長野県絶滅危惧 II 類、長野県希少野生植物指定種)、トキシソウ (絶滅危惧 II 類)、ササユリ (長野県準絶滅危惧・長野県指定希少野生植物指定種)、カキツバタ (長野県準絶滅危惧)、フクジュソウ (長野県準絶滅危惧)、コオニユリ、クサレダマ、ミズオトギリ、エゾミソハギ、ミズバショウ、リュウキンカ、サワギキョウ、モウセンゴケ、コマクサ、オヤマリンドウ、ハクサンフウロ、ミヤマセンキュウ、クロトウヒレン、ヤマガラシ、ウスユキソウ、ミヤマトウキ、ミヤマオトコヨモギ、ミヤマダイコンソウ、ヤマブキショウマ、コケモモ、クロユリ、ガンコウラン、クロマメノキ、ハクサンコザクラ、ハクサンボウフウ、チングルマ、タカネナナカマド、クロウスゴ、ベニバナイチゴ、ミツバオウレン、ウラジロナナカマド、ホンドミヤマネズ、オンタデ、イワギキョウ、イブキトラノオ、タカネマツムシソウ、ハクサンタイゲキ、カライトソウ、イワオウギ、ミヤマクワガタ、ミソガワソウ、ミヤマセンキュウ、ゼンテイカ、タテヤマウツボグサ、ゴゼンタチバナ、エゾスグリ、コメススキ、ハクサンシャクナゲ、ハイマツ、ヤマブキショウマ、シナノオトギリ、アキギリ、キバナノコマノツメ、アラシグサ、クロクモソウ、イワベンケイ、ウサギギク、チョウジギク、ハクサンオミナエシ、ユキワリソウ、カニコウモリ、ヒメクワガタ、ノコンギク、ノハナショウブ、イワツメクサ、シコタンハコベ

a. 栽培の状況

試行錯誤をしながら夏場は水はけに注意するとともに建物の日陰を利用することで、ある程度の高山植物の育苗が可能であることがわかった。今後も種数を増やしながら付属園において来館者が観察できる環境を整えていきたい。

3 付属園整備 (担当：清水博文、動物：栗林勇太・藤田達也、植物：千葉悟志)

(1) 付属園整備構想の計画見直しについて

①経過と方針

博物館付属園整備構想及び計画については、平成 25 年度に一度作成しているところであるが、その後に行われたライチョウ舎の増設工事との整合性を図るため、ライチョウ舎以外の整備計画作成に着手すべく、平成 30 年度において大町市教育委員会、大町市社会教育委員会、市立大町山岳博物館協議会、大町山岳博物館友の会 (役員対象) に意見聴取をさせていただき、この結果を踏まえて館内において協議を重ねてきた。

現行構想においては「市民に愛される付属園」とされ、付属園が今日まで市民や観光客に親しまれてきた経過を考慮すると、整備構想の見直しに際し、ライチョウとカモシカ以外の動物の飼育も視野に、どの程度の動物飼育 (種類・飼育数) が当館の施設規模や組織体制に即して適正であるのか、さらには財政的に投資に見合う施設整備か等、時間をかけて慎重に協議を進めていくこととなった。

②構想を実現化していく上での主な課題点

- ・カモシカの飼育繁殖のための施設形態と適正規模を検討。
- ・導入動物の種類選定にあたって、飼育や繁殖計画の策定、施設規模や施設内容等について (動物エンリッチメントへの配慮、繁殖の可否、入手方法、業務量の検討)。

- ・イヌワシ舎については、撤去の方針で検討を進める。
- ・コレクションプランについての調査研究と導入。
- ・予算規模（投資規模や年間のランニングコスト）とスタッフ体制の検討。
- ・付属園設置要綱等が未整備なため、整備構想・見直しの基盤が定まらない状況（付属園設置要綱を構想・計画の見直しに合わせ策定）。
- ・ライチョウ、カモシカを主体とした施設規模等に応じた飼育可能な導入動物の適正な飼育繁殖方法等の検討。
- ・新たな付属園構想には高山植物や岩石・鉱物の展示、学習や滞留空間、憩いの場の創出のための検討を行っているが、更に具体案の検討を進める。

以上、主だった課題点を列挙したが、これらの課題解決を図りながら、実施計画の策定を行う。

4 公益社団法人日本動物園水族館協会（担当：藤田達也）

公益社団法人日本動物園水族館協会（略称：日動水、JAZA）は、国際的な視野に立って、自然や貴重な動物を保護するためにできた国内の動物園や水族館の組織。日本全体の視野に立って、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」という4つの目的を中心に、単独の園館ではできないことを協力して行っており、当館では付属園で動物を飼育していることから、同協会へ加盟している。

前年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により本年度も会議等が中止となり、意見書および委任状での対応を行った。

V その他

1 各種委員等の委嘱他

ライチョウ会議 事務局（栗林勇太）

第20回ライチョウ会議長野県駒ヶ根・宮田大会 実行委員会（栗林勇太）

日本動物園水族館協会生物多様性委員会 ライチョウ専門技術員（栗林勇太）

全国山岳博物館等連絡会議〔主催：公益社団法人日本山岳会〕（清水隆寿）

長野県博物館協議会 監査（鈴木啓助）

信州大学・大町市連携協議会 委員（鈴木啓助）

高山植物等保護対策協議会 中信地区会員（鈴木啓助）

安曇野アートライン推進協議会 幹事（鈴木啓助）／同協議会代表館（清水隆寿）

大北地区野生鳥獣保護管理対策協議会 委員（鈴木啓助）

北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会 参与（鈴木啓助）

長野県科学振興会大町支部 理事（清水博文）

大町桜まつり実行委員会 委員（清水隆寿）

針ノ木岳慎太郎祭実行委員会 副大会長（鈴木啓助）

大町博物館連絡会 理事（鈴木啓助） 幹事（清水隆寿）

大町博物館連絡会 代表 大町市青少年育成協議会 理事（清水隆寿）

北アルプス雪形まつり実行委員会 実行委員（清水隆寿）

2 アルプス動物園との友好提携協定の締結

昭和60年2月18日、オーストリア・インスブルック市のアルプス動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結をした。

「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）平成27年4月8日、友好提携30周年を記念し、友好提携再締結をした。

3 信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結

平成17年7月5日、信州大学山岳科学総合研究所と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結をした。

「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山岳博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳及びそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」(同協定書より抜粋)

4 長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結

平成26年3月25日、長野県環境保全研究所と当館は、次のような目的による連携・協力に関する協定について締結をした。

「長野県を特徴づける山岳域の自然とその環境保全にかかわる諸課題の解明や解決に力をあわせて取り組むことが、学術振興や自然環境保全、そして地域の発展に重要な役割を果たすことを深く認識し、両機関が、調査研究・教育普及・人材育成等、相互協力が可能な事項について、互恵の精神に基づき具体的な連携・協力を効果的に実施することにより、学術の振興及び自然環境保全に寄与するとともに、地域の発展に貢献することを目的として連携・協力に関する協定を締結する。」(同協定書より抜粋)
なお連携協定の有効期間は、締結日から5年間と定められていることから、あらためて、相互に協定書を交わし、平成31年4月1日に再締結を行った。有効期間は、令和6年3月31日までの5年間とする。

5 ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結

平成27年6月18日、公益財団法人富山市ファミリーパーク公社と当館は、次のような目的による連携に関する協定について締結をした。

「ニホンライチョウは国の特別天然記念物にも指定されている日本を代表する鳥類であるが、近年は絶滅が危惧され、国の保護増殖事業計画種にも指定されている。両園館は互いに隣接する、ニホンライチョウの生息県に所在する園館として、ニホンライチョウの保護増殖を目的に、ライチョウ類の飼育繁殖技術の連携に関する協定を締結する。」(同協定書より抜粋)

6 梅棹忠夫 山と探検文学賞への協力

平成22年(2010)5月、「梅棹忠夫 山と探検文学賞」委員会のもと創設され、創設時より山岳博物館は協力という形で支援をしています。選考委員会委員長・小山修三(国立民族学博物館名誉教授)氏のもと、令和4年7月7日に受賞式が信濃毎日新聞社において実施された。

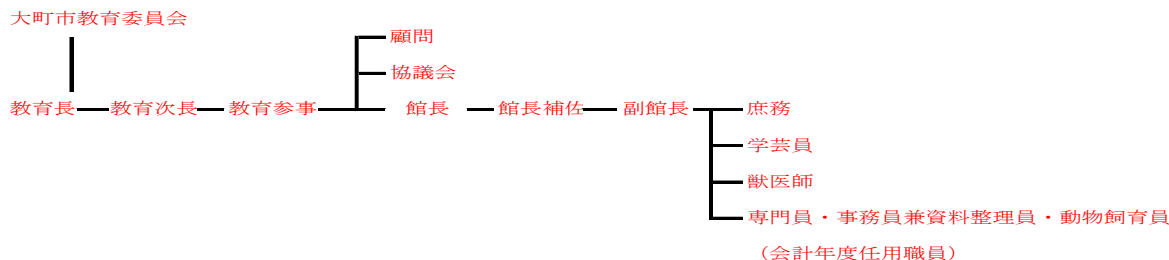
以下、これまでの梅棹忠夫「山と探検文学賞」受賞作品です。

- 第1回(2012) 角幡唯介「空白の五マイル」(集英社)
- 第2回(2013) 中村保 「最後の辺境 チベットのアルプス」(山と溪谷社)
- 第3回(2014) 高野秀行「謎の独立国家 ソマリランド」(本の雑誌社)
- 第4回(2015) 中村哲 「天、共に在り アフガニスタン三十年の闘い」(NHK出版)
- 第5回(2016) 服部文祥「ツンドラ・サバイバル」(みすず書房)
- 第6回(2017) 中村逸郎「シベリア最深紀行」(岩波書店)
- 第7回(2018) 大竹英洋「そして、ぼくは旅にでた。はじまりの森ノースウッズ」(あすなる書房)
- 第8回(2019) 佐藤優 「十五の夏」(幻冬舎)
- 第9回(2020) 萩田泰永「考える脚」(KADOKAWA)
- 第10回(2021) 小野和子「あいたくて ききたくて 旅にでる」(PUMPQUAKES)

VI 運営

1 組織および職員構成

(1) 組織



(2) 顧問

小坂共栄（平成28年3月1日～）

(3) 協議会委員

学校教育および社会教育の関係者：宮澤忠利、宮澤洋介

家庭教育の向上に資する活動を行う者：松原 亨、赤坂隆宏

学識経験のある者：岡田忠興、村越直美、佐藤悟、須賀 丈、菊原昭一、須田哲、丸山祥子

(4) 職員

①配置

館長 鈴木啓助

館長補佐 清水博文

副館長 清水隆寿（人文科学系学芸担当兼庶務）

学芸員 千葉悟志（自然科学系植物担当）

栗林勇太（自然科学系動物担当）、藤田達也（自然科学系動物担当）

専門員※ 太田勝一（自然科学系地質担当）

獣医師 横沢 豊（令和2年3月1日～ 非常勤）

事務員兼資料整理員※ 家城良好・降旗秀子

動物飼育員※ 小里玲奈・唐澤沙波・辰己萌恵・渡邊咲晴 ※会計年度任用職員

②人事異動

転入 館長補佐 清水博文（令和4年4月1日）

動物飼育員 渡邊咲晴（令和4年4月1日 新規採用）

転出 学芸員 藤田達也（令和5年3月31日）

専門員 太田勝一（令和5年3月31日退職）

動物飼育員 小里玲奈（令和5年1月31日退職）

2 市立大町山岳博物館協議会

協議委員任期：令和4年度は任期改選の年にあたり、以下のとおり協議委員を委嘱した。

令和4年4月1日～令和6年3月31日〔任期：2年間〕

協議委員名簿：宮澤忠利（学校教育関係者）

宮澤洋介（社会教育関係者） ※協議会会長

松原 亨（家庭教育活動者）

赤坂隆宏（家庭教育活動者）

岡田忠興（学識経験者） ※協議会副会長

村越直美 (学識経験者)
 佐藤 悟 (学識経験者)
 須賀 丈 (学識経験者)
 菊原昭一 (学識経験者)
 須田 哲 (学識経験者)
 丸山祥子 (学識経験者)

(1) 第1回協議会

- ①日 時：令和4年5月17日 午前10時～正午
 ②場 所：山岳博物館 講堂
 ③出席者：宮澤洋介、岡田忠興、宮澤忠利、松原亨、赤坂隆宏、須賀丈、菊原昭一、須田哲、丸山祥子
 荒井今朝一、鈴木啓助、清水博文、清水隆寿、千葉悟志、栗林勇太、藤田達也
 ④内 容：・報告
 令和3年度事業について
 令和4年度事業について
 令和4年度ライチョウ保護事業について
 ・協議
 付属園の整備構想について

(2) 第2回協議会

- ①日 時：令和5年3月17日 午後1時30分～午後3時
 ②場 所：山岳博物館 講堂
 ③出席者：宮澤洋介、宮澤忠利、松原亨、赤坂隆宏、須賀丈、菊原昭一、須田哲、丸山祥子、竹内紀雄、鈴木啓助、清水博文、清水隆寿、千葉悟志、栗林勇太、藤田達也、太田勝一
 ④内 容：・報告
 令和4年度事業の進捗
 動植物飼育栽培繁殖事業について
 ライチョウ保護事業について
 その他の事業について
 入館者状況について
 令和5年度事業の概要について
 市立大町山岳博物館条例及び規則の改正について
 ・協議
 冬期開館時間の検討について

3 入館者状況

(1) 過去の入館者状況

年 度	有料入館者							無料入館者			合 計	
	個人			団体			小計	一般 減免	市内			小計
	大人	高校 生	小中 生	大人	高校 生	小中 生			65歳 以上	小中 生		
S26	291		100	21		77	489				489	
27	2,425		1,022	186		1,514	5,147				5,147	
28	8,922		2,229	725		1,216	13,092				13,092	
29	7,779		1,831	625		1,189	11,424				11,424	
30	6,831		1,664	1,445		945	10,885				10,885	
31	2,148		888	1,036		858	4,930				4,930	
32	1,934		658	826		1,880	5,298				5,298	

33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897					7,897
34	2,972		626	1,727		1,788	7,113					7,113
35	3,635		878	1,943		2,143	8,599					8,599
36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163					10,163
37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243					14,243
38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893					15,893
39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242					26,242
40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560					25,560
41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680					26,680
42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900					25,900
43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538					41,538
44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967					32,967
45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929					30,929
46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326					39,326
47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670					40,670
48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373					58,373
49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254					62,254
50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692					67,692
51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603					70,603
52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700					54,700
53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129					64,129
54	27,769		4,485	25,089		6,600	63,943					63,943
55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038					57,038
56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132					65,132
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965	70,215
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026	86,416
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117	82,384
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770	99,866
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509	86,678
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605	86,238
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269	84,925
H1	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709	80,744
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844	82,798
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577	86,477
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413	73,824
年 度	有料入館者							無料入館者				合 計
	個人			団体			小計	一般 減免	市内		小計	
	大人	高校	小中	大人	高校	小中			65歳 以上	小中 生		
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587	75,766
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376	64,939
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376	63,860
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174	53,984
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,133	1,429			1,429	47,562
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686	42,440
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206	34,618
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187			1,187	34,059
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	826	2,710	35,013
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	451	1,655	28,399

15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891	28,322
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317	21,551
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	491	1,599	19,265
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	688	2,675	23,363
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	693	1,874	17,572
20	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	619	2,325	18,515
21	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,164	143	348	1,655	17,942
22	9,578	103	594	2,665	466	467	13,873	955	116	203	1,274	15,147
23	12,376	127	855	2,963	328	1,396	18,045	2,023	146	819	2,988	21,033
24	9,827	114	640	2,335	498	587	14,001	1,294	94	783	2,171	16,172
25	7,550	97	522	2,008	142	353	10,672	919	162	409	1,490	12,162
26	12,249	120	892	3,146	655	370	17,432	2,450	422	615	3,487	20,919
27	10,427	101	795	2,729	444	610	15,106	2,350	214	572	3,136	18,242
28	9,774	98	709	2,442	433	540	13,996	2,008	127	759	2,894	16,890
29	10,210	77	735	3,084	230	1,176	15,512	2,477	217	486	3,180	18,692
30	10,795	79	840	2,895	245	826	15,680	2,878	117	422	3,417	19,097
R1	11,459	115	1,070	3,305	247	391	16,587	2,882	84	328	3,294	19,881
2	4,734	74	508	3,670	58	599	9,643	1,996	111	445	2,552	12,195
3	6,247	73	735	2,817	126	801	10,799	2,797	102	374	3,273	14,072
4	9,762	114	1,004	5,253	528	1,136	17,797	2,840	158	512	3,510	21,307
累計	1,382,095	20,558	200,189	627,164	87,322	287,873	2,605,201	121,403	3,668	12,121	137,192	2,742,393

(2) 令和4年度の入館者状況

月	有料入館者							無料入館者			小計	合計
	個人			団体			小計	一般 減免	市内			
	大人	高校	小中生	大人	高校	小中生			65歳 以上	小中 高生		
4	823	6	59	317	87	26	1,318	297	31	22	350	1,668
5	1,324	9	99	601	7	50	2,090	348	7	50	405	2,495
6	524	3	22	341	106	88	1,084	215	6	136	357	1,441
7	899	6	127	532	314	672	2,550	367	7	35	409	2,959
8	1,778	50	371	871	8	112	3,190	382	6	7	395	3,585
9	925	8	68	552	0	28	1,581	232	18	2	252	1,833
10	1,049	3	74	555	0	18	1,699	363	31	55	449	2,148
11	872	3	41	380	1	40	1,337	157	10	130	297	1,634
12	293	5	29	369	1	10	707	101	4	1	106	813
1	273	4	26	174	0	26	503	88	20	4	112	615
2	321	4	17	194	1	21	558	119	8	58	185	743
3	681	13	71	367	3	45	1,180	171	10	12	193	1,373
計	9,762	114	1,004	5,253	528	1,136	17,797	2,840	158	512	3,510	21,307
前年	6,247	73	735	2,817	126	801	10,799	2,797	102	374	3,273	14,072
前年度比	156.3%	156.2%	136.6%	186.5%	419.0%	141.8%	164.8%	101.5%	154.9%	136.9%	107.2%	151.4%

(3) 令和4年度の開館日数

全315日

※通常であれば316日の開館予定であったところ、盗難事件があり、2月19日（日）臨時休館の対応をとったため、開館日数が1日間減少することになった。

4 令和4年度予算・決算

(1) 歳入

(単位：円)

項目	観覧料	県委託金 (傷病鳥獣救護)	寄附金	雑入	合計
当初予算額(A)	6,109,000	170,000	0	499,000	6,778,000
決算額(B)	7,061,870	132,000	550,071	441,991	8,185,932
比較(B-A)	952,870	△38,000	550,071	△57,009	1,407,932

(2) 歳出

(単位：円)

項目	一般職員 人件費	管理運営 一般経費	教育普及 事業	調査研究 事業	資料収集 保管事業
当初予算額(A)	34,223,000	19,410,000	5,159,000	489,000	905,000
決算額(B)	39,795,214	17,786,655	4,346,135	349,252	751,876
比較(B-A)	7,572,214	△1,623,345	△812,865	△139,748	△153,133

項目	動植物飼育 栽培事業	ライチョウ飼育 事業	付属園整備 事業	合計
当初予算額(A)	7,181,000	8,785,000	918,000	77,070,000
決算額(B)	4,608,861	4,230,545	550,770	72,419,308
比較(B-A)	△2,572,139	△4,554,455	△367,230	△4,650,692

5 ミュージアムカフェ・ショップ (担当：清水博文)

大町山岳博物館では、博物館を利用する来館者及び大町公園や東山へのトレッキングなどの利用者への利便性の向上を図ることを目的に、館内にミュージアムカフェ・ショップを設置し、飲食物の提供や商品の販売を行っている。運営にあたっては、事業者を公募し、委託営業を行っている。

平成6年7月1日から平成25年11月4日にかけては、大町山岳博物館友の会に運営を委託し、喫茶・売店「こまくさ」として営業を行っていた。平成26年4月から新たに運営業者を公募し、山内優氏によりミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」と店舗名を変更し運営にあたっていただいていたが、行政財産使用期限が令和5年3月31日をもって終了することから、新規公募を募り運営業者の選定を行い、令和5年4月1日からの委託契約を結んだ。

(1) 令和4年度受託者

- ・氏名：山内 優
- ・名称：ミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」

(2) 契約期間

- ・令和2年4月1日～令和5年3月31日まで〔3年間〕

(3) 令和5年度以降の運営体制について

- ・令和5年3月末をもってミュージアムカフェ・ショップ運営業者との契約期間が終了することから、令和4年度中に新たな運営業者の選定を行った。

選定にあたっては、企画提案方式（プレゼンテーション）とし、第一次審査は書類審査とし、第二次審査をプレゼンテーション審査と定め、令和4年8月号の大町市広報に応募要領を掲載して募集を行った。契約期間は令和5年4月1日～令和6年3月31日（3年間まで更新可能）とした。

その結果、3者からの応募があり、現地説明会の後、第一次書類審査及び第二次のプレゼンテーション審査を実施した結果、長谷川雄一氏「イイココ・インキュベーション合同会社」が、令和4年11月4日付で委託業者として採用が決定し、令和5年4月以降、ミュージアムカフェ・ショップ「c a f e かもしか」の運営を行っていただくこととなった。

Ⅶ 関係条例規則等

1 市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日

条例第 12 号

改正 昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号

平成元年 3 月 24 日条例第 7 号

平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号

平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号

平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号

平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号

平成 17 年 12 月 6 日条例第 80 号

平成 24 年 3 月 26 日条例第 3 号

平成 26 年 3 月 28 日条例第 8 号

平成 29 年 3 月 15 日条例第 7 号

令和元年 12 月 23 日条例第 32 号

令和 5 年 3 月 20 日条例第 10 号

市立大町山岳博物館条例(昭和 29 年条例第 18 号)の全部を改正する。

(目的)

第 1 条 この条例は、山岳文化の振興及び活用並びに自然環境の保全及び共生を図るため、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物館(以下「博物館」という。)の設置及び管理について必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第 2 条 山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

(名称及び位置)

第 3 条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館 大町市大町 8056 番地 1

(職員)

第 4 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 4 条の規定により、館長、学芸員その他必要な職員を置く。

2 博物館に必要な応じ顧問を置くことができる。

(観覧料)

第 5 条 博物館を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 小学校就学の始期に達するまでの者

(2) 大町市立学校に在学する児童又は生徒

(3) 市内に住所を有する高校生(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基づく高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部その他これらに準ずる学校に在学する者をいう。以下同じ。)

(4) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

(観覧料の減免)

第 6 条 教育委員会は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(賠償責任)

第 8 条 故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

(博物館協議会)

第 9 条 博物館法第 25 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会(以下「協議会」という。)を設置

する。

2 協議会の委員(以下「委員」という。)は15人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験のある者
- (4) 公募による市民等

3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

1 この条例は、昭和57年6月5日から施行する。

2 この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例(昭和29年条例第18号)第5条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第10条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第3項の規定にかかわらず、昭和58年3月31日までとする。

附 則(昭和61年3月24日条例第8号)

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(平成元年3月24日条例第7号)

この条例は、平成元年4月1日から施行する。

附 則(平成4年3月31日条例第8号)

この条例は、平成4年4月1日から施行する。

附 則(平成5年12月24日条例第32号)

この条例は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成12年3月29日条例第13号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成13年3月27日条例第13号)

この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附 則(平成17年12月6日条例第80号)

この条例は、平成18年1月1日から施行する。

附 則(平成24年3月26日条例第3号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月28日条例第8号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月15日条例第7号抄)

(施工期日)

1 この条例は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(令和元年12月23日条例第32号)

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

附 則(令和5年3月20日条例第10号)

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表(第5条関係)

種 別	区 分	単 位	観 覧 料
一般	大人	1人	450円
	高校生	〃	350円
	小人	〃	200円
団体 (30人以上の場合をいう)	大人	〃	400円
	高校生	〃	300円
	小人	〃	150円

備考 特別の資料を展示する場合は、1,000円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

2 市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日

教育委員会規則第 3 号

改正 平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号

平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号

平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号

令和 4 年 3 月 31 日教委規則第 5 号

令和 5 年 3 月 28 日教育委規則第 2 号

(趣旨)

第 1 条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例(昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という。)の規定に基づき、市立大町山岳博物館(以下「博物館」という。)の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第 2 条 館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、館長の命を受け、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。

3 その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。

4 館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、課長補佐又は係長相当職をもって充てる。

5 顧問は、館長の求めに応じ、博物館の企画及び運営並びに学術的な助言を行うものとする。

(休館日)

第 3 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

(1) 毎週月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日の翌日(この日が月曜日に当たるときは、その翌日)

(3) 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日(前号に掲げる日を除く。)

(開館時間)

第 4 条 博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の交付)

第 5 条 条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券(様式第 1 号)に領収印を押印し、交付するものとする。

(観覧料の減免)

第 6 条 条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書(様式第 2 号)を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

(博物館資料の利用等)

第 7 条 条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書(様式第 3 号)を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

2 前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。

(入館制限等)

第 8 条 教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

(2) 管理上支障があると認められるとき。

(3) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第 9 条 博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書(様式第 4 号)を教育委員会に提出するものとする。

- 2 寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。
- 3 博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。
- 4 寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。

(資料等の滅失・損傷)

第 10 条 館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。

(協議会の組織)

第 11 条 協議会に、委員の互選による会長及び副会長各 1 名を置く。

- 2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

(協議会の会議)

第 12 条 協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附 則

- 1 この規則は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。
- 2 市立大町山岳博物館規程(昭和 29 年教育委員会規則第 9 号)及び市立大町山岳博物館協議会規程(昭和 29 年山岳博物館規程第 1 号)は、廃止する。

附 則(平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号)

この規則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号)

この規則は、平成 10 年 1 月 1 日から施行する。

附 則(平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号)

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 4 年 3 月 31 日教委規則第 5 号)

この規則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 5 年 3 月 28 日教委規則第 2 号)

この規則は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

様式(省略)

3 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成17年7月7日
教育委員会告示第8号

(趣旨)

第1 大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2 委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。

(組織)

第3 委員会は、委員10人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4 委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。

第5 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員が互選する。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(オブザーバー)

第6 委員会にオブザーバーを置くことができる。

2 オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。

(会議)

第7 委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

(事務局)

第8 委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。

(補則)

第9 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

この告示は、告示の日から施行する。

VIII 市立大町山岳博物館の使命

平成 23 年 10 月

1 市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に

市立大町山岳博物館は、昭和 26 年 11 月 1 日に創立し、今年で 60 周年を迎えた。昭和 24 年の設立趣旨には「地方文化の興隆」「信州文化の粹たる山岳文化の殿堂」「中部山岳国立公園の施設」「山岳の観光案内所としての博物館」「山岳博物館の立地条件を充たす大町」があげられており、当時の地域住民の博物館建設へ寄せた熱意と献身的な活動により山岳博物館が誕生した。

大町市は、山岳博物館創立 50 周年（平成 13 年）をきっかけに、21 世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざすべく「山岳文化都市宣言」を行った。

山岳博物館を誕生させた母なる北アルプスの雄大な姿は、将来、社会情勢がいかに変化し、科学技術が進歩しようとも、今と変わらず大町市民にとって常に身近な存在であり続けるであろう。

私たちは創立 60 周年を機に、あらためて設立当初の精神に立ち返り、「山岳文化都市宣言」の基本的理念を尊重しながら、これからの山岳博物館のあるべき姿を考えていく。

2 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念

市立大町山岳博物館の存在意義や社会に対する使命（責務）は次のとおりである。

大町市は、「美しく豊かな自然文化の風薫る きらり輝くおおまち」をめざし、市民あるいは市内を訪れる方などのために、生涯学習の支援と推進や社会教育の充実と活性化を進めている。

これを達成するために、市立大町山岳博物館（以下、山岳博物館）は、「自然と人が共生する「山岳文化都市」の形成につながるあらゆる活動を充実させ、地域の博物館としての機能の充実を図る。その核となる活動は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理することであり、これらを活用した次のような教育普及活動を推進することである。

(1) 大町市や周辺地域の人たちのために

- ①郷土の自然や文化を見つめ直し、この地域ではこれまでどんなことがあったのか、今どうなっているのかを知り、これから将来はどうなるのかを考える場所を提供する。
- ②この地域にどのような価値があるかを知っていただき、郷土に誇りを持つことができる機会や場所を提供する。
- ③郷土の自然と文化に接し、心の豊かさを感じ、学ぶことの楽しさや大切さを味わって活動し、それを表現できるような機会や場所を用意する。
- ④豊かな自然環境を護り、自然と共存することの大切さを理解できるような場所や機会を提供する。
- ⑤博物館を中心にして、動植物園、遊歩道、園地、売店などいろいろな施設を充実させ、ここがゆっくりとくつろげて、楽しめる場所であるという考え方を大切にする。

(2) 大町市を訪れる人たちや北アルプスとその山麓地域の自然と文化を知りたい人たちのために

- ①観光客・登山者をはじめ北アルプスとその山麓地域の自然と文化について、関心を持つすべての人々の学習のきっかけをつくる手助けをする。
- ②「山岳文化都市」づくりの中核を担う施設として、北アルプス周辺のフィールドへといざなう窓口となる。
- ③大町市をはじめ、県内外にひろく「自然と人が共生する山岳文化」の情報を発信し、さらなる山岳文化の創造を進める。

3 平成24年度からの市立大町山岳博物館の基本方針

(1) 調査研究の推進

博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、国・県や各種研究機関と連携した調査や研究を推進する。

①調査・研究の分野・範囲

北アルプスを中心とした山麓から高山までの地域と、それに関連した人文・自然科学分野の調査研究に重点をおく。

②情報収集

調査・研究のため、また利用者のさまざまな要求に応え、多くの人に資料や情報を利用していただけるように、国内外から多くの情報を集める。

③体制づくり

国や地方自治体、大学などの各種研究機関や市民と連携した調査研究を進める。

(2) 資料の収集・整理、保管の推進

北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、博物館で取り扱うことがらを定めて、それに沿った資料・情報の収集・整理、保管を推進する。

①収集・整理の推進

早急に記録にとどめ、保存が必要と考えられる資料を最優先に収集し、記録、整理をおこない、山岳博物館における情報発信の核とする。

②収集の範囲

山岳、特に北アルプスを中心とした山麓周辺から高山までの地域とそれらに関連した海外の人文・自然科学分野に関する資料（有形・無形を含めた事物や事象）の収集をおこなう。

③保存・管理の推進

収集された資料は適正に管理された環境において保管され、品質の劣化を防ぎ、将来の資産とする。

(3) 調査研究の成果および収集資料の活用

調査・研究の成果や博物館の資料を十分に活かした活動を進める。

①調査・研究の成果活用

調査研究の成果を常設展示や企画展示に反映させ、各種の教育普及活動に有効活用する。

②収集・保管の成果活用

収集した資料を対象に調査研究を進めるとともに、展示の基礎資料とし、各種の教育普及活動にも有効活用する。

③保護・保全への貢献

調査研究の成果は、地域において学術的・歴史的価値の高いもの、あるいは環境・景観等の保全・保護に役立てる。

④体制づくり

山岳の自然と文化に関する各種情報を集め、山岳情報のネットワークをつくる。

(4) 教育普及活動の推進

地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報をわかりやすく興味を持てるように示す。また、それを通して新しい発見、驚き、関心が得られるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

①生涯教育・社会教育の推進

博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開する。そして、それらの活動が、知的欲求を一時的に満たすだけでなく、生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

②学社連携・融合の推進

学校と博物館を結んだ事業を積極的に行い、児童・生徒・（先生）の学習の場とし、関心を持つきつ

かけづくりをする。

③協働の推進

国や県をはじめとする大学や研究所・博物館・動植物園など、国内外の機関と連携した活動を展開するとともに、地域の情報を取り入れて市民との協働の活動を推進する。

(5) 付属園（動植物園）の充実

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見てもらうという考え方を大切にする。

①生体展示

生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。

②教育普及への活用

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。

③傷病鳥獣の救護

傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。

④希少種の保護

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。

⑤施設整備の充実

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

IX 施設

1 敷地面積

41,575.69 m²（都市公園としての開設面積）市有地：38,493.15 m²、民有地：3,082.54 m²

2 本館建物

(1) 構造：鉄筋コンクリート造 地上3階 地下1階

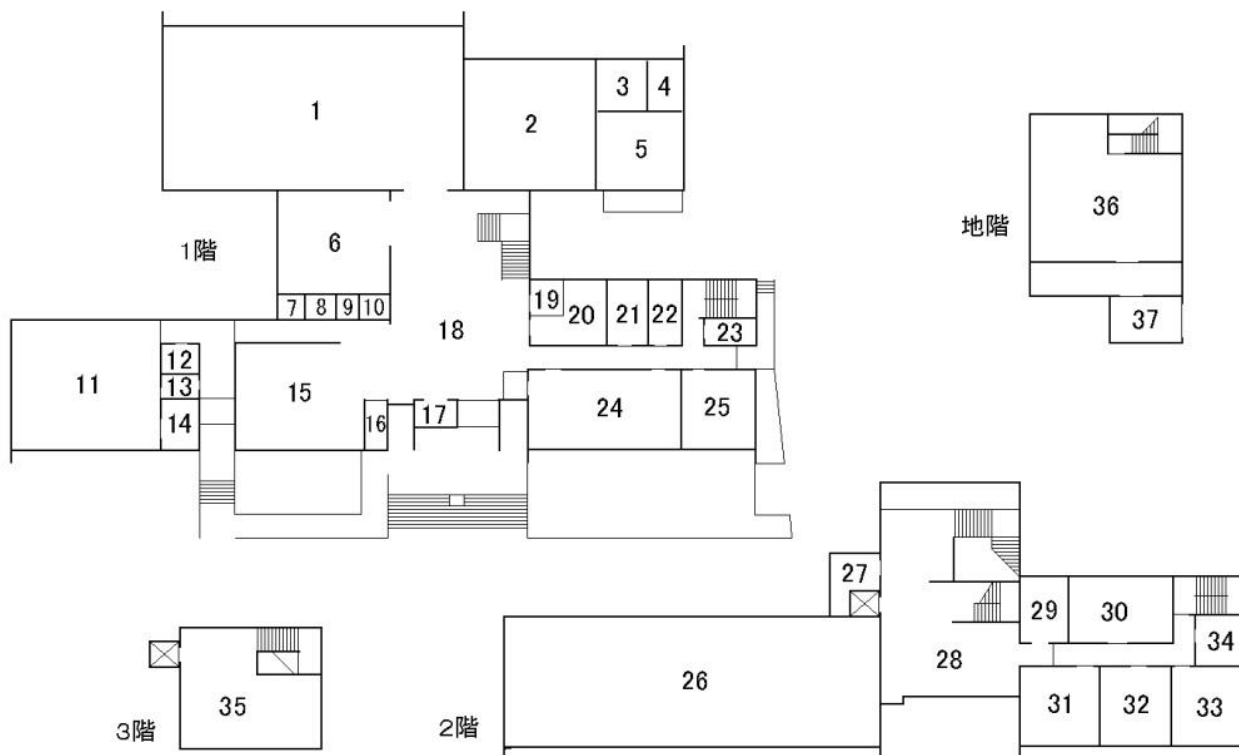
(2) 竣工：昭和57年5月31日竣工

(3) 面積：建築面積1,280.9 m² 延べ床面積2,207.04 m²

(4) 床面積表

(単位：m²)

1階 1,244.9				2階 686.14			
名称	面積	名称	面積	名称	面積	名称	面積
1 展示室	290.0	14 準備室	9.1	26 展示室	290.0	31 研究室	34.8
2 収蔵庫	104.0	15 カフェ・ショップ ^o	74.2	27 ハッケージ室	14.9	32 資料庫	34.8
3 ハッケージ室	16.4	16 授乳室	6.7	28 展示室	113.6	33 図書室	34.8
4 燻蒸室	12.3	17 荷物置場	14.4	29 男子トイレ	18.2	34 資料庫	16.0
5 荷解作業室	41.3	18 ホール	116.9	30 収蔵庫	42.1	廊下階段等	86.9
6 特別展示室	70.4	19 多目的トイレ	6.5	3階 116.8			
7 EV機械室	6.0	20 女子トイレ	22.5	名称	面積	名称	面積
8 倉庫	3.5	21 書庫	16.7	35 展示室	94.6	階段	22.2
9 倉庫	3.0	22 更衣室	14.6	地階 159.2			
10 E.V	5.1	23 倉庫	8.8	名称	面積	名称	面積
11 講堂	110.2	24 事務室	69.6	36 機械室	118.8	階段	17.4
12 トイレ	8.1	25 休憩室	32.5	37 車庫	23.0		
13 倉庫	5.4	廊下、階段等	176.7				



3 付属施設

(1) 付属園（付属動植物園） ※本館隣

①施設の概要 敷地面積：39,875.92 m²

②建物の概要（建設年度順） ※B-8・10については放飼場の面積を除く

施設名・構造・建築面積(築年度)			施設名・構造・建築面積(築年度)			施設名・構造・建築面積(築年度)		
B-1	CB造	28.20(S38→S55 移設)	B-8	CB造	26.92(H1)	A-10	木造	52.00(H21)
B-2	CB造	14.79(S38→S55 移設)	B-9	CB造	34.83(H3,4)	A-11	木造	42.00(H27)
B-3	CB造	22.62(S53)	B-10	CB造	5.20(H3)	A-12	木造	33.00(H27)
B-4	パネル造	39.63(S54・55)	B-11	鉄骨造	67.65(H4)	A-13	木造	19.13(H27)
B-6	パネル造	18.99(S60,61)	B-12	鉄骨造	86.44(H7)	A-14	木造	146.16(H29)
B-7	CB造	46.50(S61)						



(2) 山岳図書資料館 ※本館隣

①施設の概要

- ・構造・規模：鉄骨造 地上2階
- ・竣工・開館：平成24年3月2日竣工 平成24年4月20日開館
- ・各面積：敷地面積498.21 m² 建築面積59.96 m²
延床面積117.45 m² (1階58.725 m²、2階58.725 m²)
- ・設備・備品：ハンドル式移動書架18基 固定式書架(各種)29基 ほか

X 利用案内（令和4年3月31日現在）

- 1 開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 2 休館日 毎週月曜日、国民の祝日・振替休日の翌日、年末年始（12月29日～1月3日）
※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館 7月・8月は無休
- 3 交通 公共機関 JR信濃大町駅から タクシー5分、徒歩25分
車 長野自動車道安曇野ICから40分
（北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ28km）
※博物館前に無料駐車場（普通車30台・大型バス5台収容）

4 観覧料	区 分	大 人	高校生	小・中学生
	個 人	450円	350円	200円
	団 体（30名様以上）	400円	300円	150円

- 5 ユニバーサルデザイン
入口スロープ、入口階段手すり、玄関自動ドア、多目的トイレ、授乳室、車イス対応
エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、アシスタントドッグ同伴可能
- 6 所在地および連絡先
〒398-0002 長野県大町市大町8056-1
（標高：766m、経緯：北緯36度30分、東経137度52分）
TEL：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133
E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL：<https://www.omachi-sanpaku.com>

市立大町山岳博物館 令和4年度 年報

2023(令和5)年7月30日発行

編集・発行 市立大町山岳博物館

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

TEL:0261-22-0211 / FAX:0261-21-2133

印刷・製本 有限会社北辰印刷

〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1

TEL:0261-22-3030 / FAX:0261-23-2010

この印刷物は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。